

鹿児島大学工学部同窓会

会報 南極風

第9号

平成21年3月10日発行



同窓会名簿の個人情報取扱いについて

鹿児島大学工学部同窓会名簿第13号は、当初の予定よりも2年遅れの平成20年5月に発行しました。この遅延の原因は平成17年4月に個人情報保護法が施行され、これへの対応に時間を要した事によります。すなわち、同窓会名簿第13号の発行に先立ち、会員の皆様には会報などを通じて名簿の役割や従来形式の名簿の必要性を記した「趣意書」をご提案し、同時に個人情報に関する調査をさせていただきましたが、事務局の不慣れもあり思うように回答が集まらず、結果として名簿発行に対して皆様の同意を得るのに足かけ2年を費やしてしまいました。

次回の同窓会名簿の作成、発行にあたりましても、同様の同意が必要となります。つきましては、その前年度にあらためて個人情報調査をいたしますので、会員の皆様のご協力方、よろしくお願ひいたします。

同窓会名簿の取扱いについて

新たに皆様から頂く個人情報および従来から本会で保有しております個人情報につきましては、個人情報保護法に従い下記のように取り扱います。

1 個人情報として収集する内容

本会では以下の情報を収集いたします。

- ①名前、②自宅住所、③自宅電話番号、④勤務先、⑤勤務先電話番号

2 個人情報の利用目的

収集した情報は次に掲げる目的で利用いたします。

- ① 卒業生データの作成・管理を目的とするもの
- ② 総会等運営のために必要な文書等の送付を目的とするもの
- ③ 会報、名簿および各種お知らせ等の送付を目的とするもの
- ④ 大学への情報提供を目的とするもの

3 委託先および第三者提供先

この文書に定める利用目的に関連して、機密保持契約を締結した委託先に会員等の個人情報を提供する場合は、適格性を十分に審査し、本会が求める個人情報保護体制を維持するように管理・監督致します。

4 安全管理措置

本会は、この文書で定める目的に適合するように収集した個人情報を安全に取り扱い、不正アクセス、紛失、改ざんまたは漏洩が生じないよう適切な措置を講じます。

5 個人情報の開示・訂正・利用の停止等の申し出先

本人が当該本人に関する個人情報の開示・訂正・追加・利用停止の請求ならびに個人情報の取り扱いに関する問い合わせを行う場合の連絡先は、以下の通りです。

鹿児島大学工学部同窓会事務局

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-40

電話：099-285-3494 FAX：099-285-3494（月・水・金10:00～17:00）

E-mail: dousoukai@eng.kagoshima-u.ac.jp

目 次

同窓会会长代行	同窓会会報第9号の発刊にあたって	高崎 征忠	2
工 学 部 長	持続可能な社会構築を目指すべく	福井 泰好	3
機友会庶務幹事	岸園 司氏を偲んで	皮籠石 紀雄	4
O B より	「分析する事を反対側の立場から」	坂井 隆	6
各学科の近況	機械工学科		7
	電気電子工学科		7
	建築学科		8
	応用化学工学科		9
	海洋土木工学科		9
	情報工学科		10
	生体工学科		11
	ナノ構造先端材料工学専攻		11
在校生から	鹿児島大学に編入して	下村 香輔	13
	国際学会に参加して	有馬 圭輔	13
	学生生活における友人について	岸田 美紗子	14
留学生から	大切な経験	ジョニー ラフマン	16
工学部体育祭			17
叙勲・受賞			18
教員の異動			19
部会だより	機友会		21
	錦水会		25
	A O I 会		31
	南窓舎密会		34
	しらなみ会		38
	南翔会		44
鹿児島大学稲盛賞・工学部稲盛学生賞・学部長賞・成績優秀賞			48
進路状況			54
工学部同窓会役員・部会各支部役員名簿			59
本部だより			61
工学部同窓会学生諸活動助成金の募集について			68
編集後記			70



同窓会会報第9号の発刊にあたって

鹿児島大学工学部同窓会会长代行 高崎 征忠

同窓生の皆様には日本のみならず世界各国で、それぞれの分野でご活躍のことと存じます。在校生の皆様は日々勉学に研究に励まれていることと思います。皆様方には、かねてより同窓会の運営に御協力、ご支援をいただき心より感謝申し上げます。

さて、平成18年度に当同窓会長に就任されました岸園司氏が平成20年8月に急逝され、副会長会議にて会長代行を仰せつかった機友会の高崎でございます。

岸園氏は工学部同窓会を盛り立てるとともに、鹿児島大学の同窓生の結束を固め、鹿児島大学を魅力あるものにしたいとの思いから鹿児島大学同窓会連合会の関東支部立ち上げにご尽力をいただきました。ここにご冥福をお祈りいたします。

ところで、同窓会報も今回で第9号を発刊することになりました。昨今の世界経済は「百年に一度」という「金融危機」、「世界同時不況」などと称されるように大変厳しい時期を迎えております。一方、「ピンチはチャンス」ともいわれており、技術立国日本の一翼を担っている工学部同窓会会員の皆様の活躍の場はますます広がっていくものと思われます。頑張りましょう。

本会報が会員の皆様のために、大学や各支部の情報、人脈などを通じて相互理解、相互協力の一助になることを願っています。

本会報の発行に際しましてはご多忙の中、ご執筆いただきました先生方やOBの方および在校生の方々に心より御礼申し上げます。また、大変お忙しいなか、本会報の編集に係わられた本部および各部会の編集幹事の皆様や関係者の方々に心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様の益々のご発展とご健康を祈念申し上げますとともに、今後とも工学部同窓会へのご理解とご協力を願い申し上げます。



持続可能な社会構築を目指すべく…

鹿児島大学工学部長 福井泰好

共通教育（旧教養部）には、「人生と学問－大学活用術－」という教養科目があります。学長、理事、学部長が交代で講師を担当します。今年度は6月4日が工学部の番で、「教養というのは、かっこよく、楽しく、心豊かに生きるために道具であり、生きる上での身だしなみ」であると説きました。鹿大生には人生美学として、「物欲より精神、自分が素晴らしいと思う他の人、他人が見ても素晴らしいと思う人、そのような誰しもが、羨望の眼差しを持って対峙するような心や雰囲気を持った人」を目指して欲しいとの思いです。

さる10月29日に行われた第7回工学部稻盛学生賞授与式後の「人は何のために生きるのか」という稻盛京セラ名誉会長の特別講演では、「利己と利他」を調和させる心の必要性が説かれました。人類は生存するために「利己＝欲望」の心を持ち、それが今までの繁栄の原動力であるけれど、栄枯盛衰は世の習いゆえに「利他」の心を持って限りない欲望を抑え、持続的な将来をもたらすための行動をする必要があると理解しました。

今日的課題である持続可能な社会構築のためには、誰しもが、特にエリートたる人々が人生美学に基づく誇りある行動をする必要があります。生き様として、物欲を抑え、精神的な感性を磨き、他人を思いやる気持ちの保持が要請されています。これは、「利他」であるそうなので、達成が極めて難しい課題です。なぜなら、物欲の成果を定量的に計ることはできても、精神的な到達度を定量的に評価することは不可能だからです

「地球環境保全のためにCO₂排出量を減らし、持続可能な自然再生エネルギーを確保する」という課題は、限りない欲望の抑制を必然的に強いる命題です。しかし、この命題を若い人達に如何なる夢として語るかという難題があります。わくわくするような夢物語ではありませんし、今日の物欲を将来的に保証する話でもありません。若かりし頃の自分に納得できることかと問いかけても、yesとは言い難いとの思いもあります。

平成の裕福な時代しか知らない若い世代に、昔風の不便な生活は想像できないでしょうし、強いることもできません。異なる世代間の相対的に異なる価値観の下、絶対的な基準は存在せず、立場毎に前提が異なるため、収束するあてのない議論になります。このようなことを考えては、混沌の世界だと嘆き、悲観的になる今日この頃です。楽観的になるべきかもしれません、若い人に語るべき明るい将来が見通せないまま、この工学が主役である「持続可能な社会構築」という極めて重い命題への対応、悩みは続いています。

岸園 司氏を偲んで

平成20年8月28日、鹿児島大学工学部同窓会会長の岸園司様が急逝された。享年76歳であった。同窓会にとって、鹿児島大学にとって大きな柱を失った。余りにも突然で茫然自失の思いである。

岸園氏は昭和30年に鹿児島大学工学部機械工学科を卒業された。当時大不況であったがその時の指導教授末永勝郎先生の薦めで、現在のオイレス工業株式会社の前身である「日本オイルレスペアリング研究所」を受験された。氏の自伝「泣こよっかひっ翔べ」（この言葉は氏の座右の銘でもある）によると、受験時の面接で、創業者で社長であった鹿児島の先輩、川崎宗造氏から「八幡製鐵所の便所より小さい会社だけど、やってくれるか」と問われ、即座に「ハイッ、頑張ります！」と答えられ、その一言から氏の人生における挑戦が始まったそうである。このエピソードからも氏の穏やかな中にも燃えたぎる情熱が感じられる。入社後は、持ち前の決断力と行動力そして昼夜を分かたぬ努力で、昭和40年には取締役就任、そして昭和62年には代表取締役社長に、さらに社長退任後もなくなるまで現役として最高顧問を務められ、合計37年間の長きにわたり役員として、会社の発展に貢献された。この間、社長在任時の平成9年には会社の長年の夢であった東証一部上場を実現され、一流企業としてのオイレス工業を確固たるものとされた。まさに岸園氏の人生はオイレス工業の歴史でもある。

一方、社外でも社団法人発明協会東京支部評議員、社団法人日本商工俱楽部常任理事、社団法人日本免震構造協会副会長などを歴任され、また郷土の発展のためにも様々な要職を務められた。そして、平成12年には自動車用特殊ペアリング技術の開発と育成に対する貢献で科学技術庁長官賞を受賞され、平成13年には藍綬褒章を受章された。

また、工学部同窓会においても積極的に指導的役割を担っていただいた。とくに工学部創立40周年記念事業、同50周年記念事業など節目節目に記念講演をされ、工学部さらには大学の将来と方向性を指し示していただいた。そして平成18年に工学部同窓会会長にご就任いただいた。当時、多忙を極められていたが、法人化後の大学が生き抜いて行くには大学を支える同窓会の支援は不可欠であり、そのリーダーとして、実績と人望があり、各方面に大きな影響力を持つ方は岸園氏以外には考えられない信じ、無理を承知でお願いした。そして、氏には快くお引き受けいただいた。その時の氏の母校に対する強い愛情と大きな包容力は今でも忘れない。氏は引き受けたからには「鹿児島大学を一流的の大学に」を口癖に、実業界や政財界の広い人脈に加え、鹿児島県や鹿児島市にも働きかけられ、鹿児島大学発展への環境作りをスタートされた。氏は同窓生の多い東京でまずは活動すべき



故 岸園 司 氏

との考えがあり、平成18年には東京での鹿児島大学産学官連携情報発信シンポジウムの開催に向けて尽力され、パネリストとしても参加された。平成19年には工学部同窓会の関東合同同窓会を開催された。会長就任以来、鹿児島大学同窓会連合会の関東支部を設立したいとの考え方から、設立総会の開催に向けていろいろと準備をされており、そのなかで設立総会には鹿児島県知事、市長、大学および同窓会関係者の他に、鹿児島大学の前身である七高造士館の東京七高会会長も招待された。そしてその一歩となる鹿児島大学同窓会連合会関東支部の今年9月の設立総会を目前に病に倒れられたのである。病床でも同窓会の発展への思いは離れず、死の直前には「5分でもいい総会に出席したい」と話されたそうである。氏の無念さを思うと言葉を失う。

私は、氏にこれまで長い間お付き合いいただいた。今年も4月に、トレードマークであるシルクハット姿の氏とお会いした。その時も同窓会のあり方など、病を微塵にも感じさせない熱い思いを伺った。それが最後となった。そして追悼文を書くことになろうとは断腸の思いで一杯である。

このように岸園氏は、会社、社会、郷土そして母校のために、その一生を捧げ、全力で駆け抜けて行かれたように思う。

今年9月29日、東京帝国ホテル「孔雀の間」で行われた「お別れの会」には、氏のお人柄と幅広い交流を表すように、関東や鹿児島からだけでなく日本各地から政界、財界、大学の関係者を含め1,200人あまりの方が参列された。中央の祭壇に飾られた氏の穏やかで愛情に満ちた眼差の遺影に対し、氏が常に追い求めてこられた「創造への挑戦」の姿勢を後輩として引き継ぐことが、我々の責務と肝に銘じた。

岸園司様のご冥福を心よりお祈りします。

平成20年11月10日

機友会 庶務幹事
機械工学科教授 皮籠石 紀雄



「分析する事を反対側の立場から」

株式会社日立ハイテクフィールディング

(応化工・H15卒) 坂 井 隆

同窓会の皆様におかれましては、各分野でご活躍の事と思います。私は平成8年に応用化学工学科に入学し、途中、紆余曲折が有りましたが、現在でも恩師である肥後先生・吉留先生のお陰で平成15年に卒業する事が出来ました。最後の年は、実験と勉学に勤しみましたが、学ぶ事・それを実践する事の楽しみを教えて頂きました。それは現在の業務にも繋がっていて、日々進歩する技術を吸収する事が出来るのは「楽しみ」のお陰です。

さて、私は大学卒業後に上記会社に入社し、分析装置課という機器分析装置のメーカー・サービスを行う部署に配属されました。現在は九州支店の一員として九州一円を飛び回っています。機器分析装置とは一般では余り馴染みが無いのですが、主に液体クロマトグラフ、分光光度計、原子吸光光度計等が有り、お客様は大学・官庁・食品会社・化学会社・半導体工場と幅広いお客様層であり、本当に様々な使用方法をされています。

かく言う私も、在学中は機器分析装置を使用して実験を行っていました。装置のトラブルや使用方法の検討等には苦労した記憶があります。それが装置をはさんで逆側の人間になつたのですが、お客様の「困った顔」を見ると自分の事の様に思ってしまいます。しかし、面白いのが、装置を修理する事は仕事量の1/10も無いと言う事です。最初はメンテナンス会社なのだろうと思って入社しましたが、それ以外の「分析をより良く行いたい」「効率よく装置を使用する為にどうすればいいのか?」「装置が安定稼働する為にどうすればよいのか?」といったお客様の声から始まるビジネスをしている事です。

そのために一人一人のお客様の分析方法や目的等をよく知らなければなりません。中には難しすぎて一度で理解出来ない場合もあります。しかし、そこで諦めてしまえばただの修理屋さんになってしまいますので、その枠を超えてエンジニアになるためにお客様とのコミュニケーションが非常に重要になっております。また、「化学の知識・分析の経験」が必要で、これには在学中に学んだ事が私の助力になっています。技術と知識には終わりが無いと言われますが、まさにその通りで強力な競合他社と渡り歩くために日々勉強の毎日です。そんな中でも「楽しみ」を忘れない様にしていきたいと思います。日々楽しく過ごす事は心の健康だけでなく、体の健康にも影響すると思います。

皆様も日々の体調管理に十分ご留意され、更なるご活躍をされる事を期待いたしております。

各学科の近況

機械工学科

学科長 福原 稔

機械工学科の福井泰好教授が大学院理工学研究科長および工学部長として先頭に立ち、大学院部局化の改組を精力的に進められ、平成21年4月から新たに組織が変わります。機械工学科の入学定員は従来通り94名のままであるが、同専攻の入学定員が27名から50名と大幅に増加します。今後就職する学生が社会の要請、特に卒業生の皆様の期待に応えらるるように教職員一同一丸となって学生の教育研究に従事して参ります。現在、学科では、教授9名、准教授および講師11名、助教5名、技術専門職員および事務職員5名で運営しています。これまでに平成19年11月に飯野直子助教が熊本大学教育学部の准教授として、平成20年4月に中野寛助教が東京工業大学大学院理工学研究科の助教として転出されました。同年9月に村上洋助教が福岡県工業技術センターから転入されました。また、平成21年3月に辻尾昇三教授および高橋肇技術部総括技術長が定年退職され、同年4月に岡田裕准教授が東京理科大学へ教授として転出される予定です。

機械工学科では、学生の教育プログラムとして平成16年にJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受け、今年度認定期間最後の年を迎えて、来年度の継続審査に向けて準備を進めているところです。この教育プログラムでは継続的な教育改善に取り組むため、在学生および卒業生のご意見を取り入れながら日々努力する必要があります。在学生には各期末の授業評価アンケートを取って意見を求めており、卒業生には機友会のホームページ等を通じて、母校の大学教育についての忌憚ないご意見をお聞かせいただきたいと思います。また、卒業生の皆様には、フレッシュマンセミナーI（1年前期）および機械工学セミナー（3年後期）の講義において講師（各2名）としてご活躍の様子をお話いただいている。今後とも卒業生の皆様方のますますの大学との連携および同窓会運営にご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、卒業生の皆様方のますますのご活躍を祈念申し上げます。

電気電子工学科

学科長 宮島 廣美

電気電子工学科は、電子システム工学講座、電気エネルギー工学講座、通信システム工学講座の3大講座と、ナノ専攻の兼担講座からなり、学部学生定員は78名、大学院博士前期課程定員が24名であり、現在、教職員26名、学部生375名と院生82名が教育・研究に励んでいます。

電気電子工学科の教育課程（プログラム）は、「電気・電子・情報通信およびその関連分野」として、平成18年にJABEE（日本技術者認定機構）による認定を、また平成20年には中間審査による認定を受けました。これにより本学科のカリキュラムが技術者教育としての質の保証が客観的に認められたことになります。ただし、教育プログラムはPDCA（Plan-Do-Check-Action）サイクルを通して常に改善が求められます。今後とも皆様からのご指導、ご批判をいただければ幸いです。

平成20年度には大学院理工学研究科の部局化が計画され、21年4月からスタートの運びとなっております。これにより工学部教員はすべて大学院に所属し、学部等の教育を行うこととなります。電気電子工学科教員はナノ専攻の電気系教員を含めて、あらためて電気電子工学専攻の所属となり、大学院前期課程の学生定員は、現在の24から45名となります。学部定員は変わらず78名ですから毎年6割程度の学生の進学を期待しております。

学科内の人事については、平成20年3月に篠原勝次教授が定年退官し、同年4月には川畠秋馬教授の昇任、同年10月には山本吉朗准教授の昇任、現在は准教授と助教の公募を行っております。

同窓会の方々には、毎年「新入生歓迎会」「きばっど会」「教育支援」等、多大なご支援をいただきしております、心から感謝致しております。今後とも、一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

建築学科

学科長 友清 貴和

前回の会報第8号以降、建築学科の教員体制が大幅に変更になりました。平成19年1月皆川教授が工学部建築学科を退き、鹿児島大学理事に就任、2月に鈴木助手が助教授に昇進、3月に松永教授が定年退職、赤坂教授が鹿児島高専校長として転出、4月から助教授は准教授・助手は助教に配置転換（名称変更）、9月に本間准教授が教授へ昇進、10月に境野助教（計画系）が京都大学大学院を終えて赴任、平成20年3月に安山准教授が定年退職、4月に二宮教授（赤坂教授の後任、環境・設備系）が赴任、10月黒川准教授（材料施工系）が赴任という布陣になりました。役職では現在、松村教授が教務担当の副学部長、本間教授が入試担当の副学部長です。なお本年度3月で徳富教授が定年退職の予定で、その時はわたくし友清が一番の古株になります。

ところで、建築士法が改定になり、大学・大学院の教育も変更が余儀なくされつつあります。学部では学歴要件の変更で、建築学科卒業生に与えられていた建築士受験資格が、指定科目を履修しなければ受験資格が与えられず、建築設計7単位以上、建築計画7単位以上、構造力学4単位以上…など合計60単位以上が必要になりました。このため学科では必修科目を増やし、卒業すれば自ずと受験資格が与えられるように整備しました。大学院は2年の実務経験と見なされていましたが、インターンシップ4単位を含め建築設計に係

わる設計や演習・講義を15単位以上習得して建築実務経験1年と見なすことになりました。このためインターンシップの他、コースワーク演習・講義、建築倫理・法規、建築生産計画特論などの整備を進めています。

応用化学工学科

学科長 甲斐 敬美

応用化学工学科では、「化学工学コース」が平成16年度、「応用化学コース」が平成18年度にそれぞれJABEE（日本技術者教育認定機構）の審査を受け、教育プログラムが認定され、その後もプログラムの充実をはかってきました。それぞれのプログラムともすでに卒業生が出ており、就職活動および就職後の仕事にも少しづつ役に立つようになってきたようです。

現在の学科定員は60人ですが、入学者実数はこれよりも少し多くなっています。また、ここ2年間は女子学生の比率が高くなっています、約1/4が女子学生という構成となっていました。大学院博士前期課程への進学は、年によるばらつきはあるものの約1/2の学生が進学しております。

学科内の人事については、平成21年3月の松本教授の定年退職を皮切りに、しばらくは毎年退職者が続き、教員組織は急激に若返っていくことと思われます。

さて、工学部は大学院部局化の計画を進めております。これまで学部に所属していた教員組織が大学院に移ります。人も建物も変わらないので、外から見ると変化は分からないと思います。申請中の改組が認められた場合には、平成21年度の新入生から「応用化学工学科」での募集はなくなります。「化学工学コース」の教員は「環境化学プロセス工学科」の教員となります。化学工学の学問体系を変えることはありませんので、教育内容に大きな変化はありませんが、環境を考慮した化学プロセスのデザインができるような学生の育成にさらに力を入れる予定です。一方、「応用化学コース」の教員は生体工学科の生体機能材料講座の教員といっしょになり、「化学生命工学科」を構成いたします。この新学科は「物質環境化学コース」と「生体化学コース」から構成されます。

今回の改組は、応用化学工学科への合併以来の大きな変革になりますが、日本の将来を担う若者を一生懸命教育して社会におくり出していくので、卒業生の皆様には、今後も変わらぬご支援をよろしくお願ひいたします。

海洋土木工学科

学科長 河野 健二

海洋土木工学科では平成19年3月に桜井仁人先生が、平成20年3月に佐藤道郎先生が定年を迎えられました。両先生は海洋土木工学科の創成期から教育・研究に深く係わられ多

大なご尽力をいただきました。海洋土木工学科が学科開設から今日の発展を迎えたのも先生方のお蔭だと深く感謝する次第です。平成19年9月には環境システム工学講座に柿沼太郎准教授が着任されました。先生のご専門は海岸工学の分野で、佐藤先生の担当されていた分野を含めて教育・研究を担当されています。学科も若返りの時期を迎えており活気のある若い先生方が学科の発展を担ってくれるものと期待しているところです。

海洋土木工学科は平成16年度にJABEEの認定を受けました。学科の教育は[A]から[H]の8項目の目標に沿って実施しています。学科の教育内容とその達成すべき目標を学内・学外に周知しその実現を図るべく努力しているところです。JABEEの認定の有効期間は今年度末までですので、平成21年度は継続審査を受けることになります。その準備を始める時期になりましたが、今後卒業生の方々にもアンケート調査などをお願いすることになると思いますので、その節は宜しくお願ひします。学内外ともに厳しい状況にありますが、卒業生の活躍と発展を期待します。

情報工学科

学科長 中山 茂

情報工学科は平成9年より40名の学生定員が60名となり、大学院博士前期課程情報工学専攻も平成13年より18名の定員となりましたが、それ以降組織的な変更はありませんでした。しかし、国立大学の法人化が平成16年度より始まり、人件費削減や退職者の後任を採用しないなどのソフトなリストラで大学経営改善が図られたと思われます。そして、平成21年度より、情報工学科と生体工学科の生体電子講座とで情報生体システム工学科が発足することになりました。学生定員が学部で80名と工学部の中で2番目に大きな学科となり、大学院も情報生体システム工学専攻42名定員となり、大学院の重点化が行われるようになりました。

教育面では、情報システム工学、脳認知工学、生体計測工学の3本柱を立て、総合的に学修することが可能となり、学際的な領域で高度情報化社会に係わる産業活動の中で有機的に連携して扱うことが求められており、連携を強化しました。また、設備面では、学部定員増と急速な高度情報化に対応し、計算機の台数と機能の充実を図った新しい計算機システムを導入し、平成21年度4月より稼働します。

教官移動の近況として、平成20年3月には村島定行教授が定年退職され、現在は非常勤講師として、本学科に講義を行っていただいております。

今年度の就職状況は早くから面接や内定があり良好で、情報技術の担い手として情報工学科の学生へのニーズと期待が大きいと感じられる昨今でしたが、昨年末リーマン・ブレイザーズ破綻に始まる世界的な景気の悪化で、来年度の就職が懸念されます。

生体工学科

学科長 大木 章

生体工学科の近況をご報告します。学科創立にご努力をされた廣岡教授が平成20年3月に定年退職されました。廣岡先生は、ポリテクカレッジ川内の校長に就任され、ますます活躍中です。また、鈴木助教が、平成20年4月より理化学研究所へ転出しました。後任として、岡村助教が、平成20年11月より採用されました。塗木助教が19年度にロンドン大学へ留学し、運動制御の認知脳内情報処理過程に関する研究を行い、研鑽を積みました。現在は、生体機能材料コースは、杉村教授、板原教授、大木教授、伊東准教授、上田准教授、高梨准教授、橋口助教、中島教務職員の体制で、分子生物学、生体分子工学、環境工学の研究・教育に取り組んでいます。生体電子工学コースは、湯ノ口教授、王教授、加藤准教授、吉本准教授、辻村准教授、塗木助教、岡村助教の体制で、生体計測工学、脳神経科学、複雑系生体物理の研究・教育に取り組んでいます。

平成21年4月からは、生体工学科は大学院部局化に伴う学部改組で、生体機能材料コースの教員は応用化学工学科の応用化学コースおよびナノ構造先端材料工学専攻の一部の教員と一緒に、「化学生命工学科」という名称の新学科の担当となります。大学院（前期課程）は、これらの教員に、応用化学工学科の化学工学コース（環境化学プロセス工学科という新学科となる）の教員を加えて、「化学生命・化学工学専攻」となります。また、生体電子工学コースの教員は情報工学科と一緒に、「情報生体システム工学科」という名称の新学科の担当となり、大学院（前期課程）は同様の教員組織で「情報生体システム工学専攻」となります。生体工学科において高められてきた教育・研究の水準を、新組織に引き継ぎ、さらに発展させるべく教職員一同努力する所存でございますので、今後ともなおいっそうのご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

ナノ構造先端材料工学専攻

専攻長 青柳 隆夫

ナノ構造先端材料工学専攻が開設されて丸7年が経過しようとしています。関連学科との密な連携を取りながら教育活動を継続させ、なおかつ独立専攻として研究活動にも多くの力を注いできました。おかげで多くの博士前期課程（20年度修了まで175名）、後期課程（20年度修了まで25名）の修了生を送り出し、それぞれ大学や国立研究機関、民間企業において、研究あるいは生産部門など多方面で活躍しています。機械系、電子系、無機系の材料と生体関連の有機材料研究分野が協力し合い、異分野融合によって、ナノ構造制御された新材料の創出を目指して開設されたのが本専攻です。しかしながら皆さんもご承知の大学院重点化に伴う理工学研究科の改組により、残念ながら本年度まで終了することになりました。改組後は、それぞれの教員は自身の研究分野に近い旧専攻、新専攻に配置換

えとなります。同窓生の皆様には多くのご援助を頂き、短い期間ではありましたが、ナノ専攻として多くの業績を残すことができました。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。開設時は無かった理工系総合研究棟に入居し、恵まれた研究環境で活発な研究活動を行うことにより、多くの外部資金を獲得し、また大型プロジェクトに採択され、理工学研究科に十分な功績が残せたものと自負しております。改組後は、ナノ専攻という名前は無くなりますが、在籍する前期・後期学生の指導修了まで継続するとともに、新しい専攻で教育活動、研究活動に邁進する所存です。専攻を支えて頂いた学内、学外、特に同窓生の皆様には重ねて御礼申し上げます。

在校生から

鹿児島大学に編入して

海洋土木工学科4年 下村香輔



私は鹿児島高専から鹿児島大学工学部に編入してきました。大学進学の道を選んだ理由は様々ありますが、1番大きな理由は、高専で学んだことを幹とし大学で得られる知識をさらに加えることで、自分自身のスキルアップに繋がると考えたからです。

このような希望を胸に抱き大学生活を迎えるました。3年編入時は4年に進級するための必修単位を一発で取らなければいけないという緊張感に挫けそうになりましたが、同期の協力もあり、取れる限りの単位が取得できました。講義内容としては高専での復習のような部分もありましたが、ほとんどは新しい知識を得られる内容であり、新鮮さを感じたのを覚えています。

次に、高専は高校の延長のようなカリキュラムで毎日が進んでいたので、大学での自由なキャンパスライフにすごく憧れを持っていました。実際のキャンパスライフは、「勉強したり、卒論を進めたり、アルバイトや友人との交流など」充実した日々を送っていますが、時には樂をして勉学がおろそかになる部分も多々ありました。しかしながら、これらを通じて、限られた時間を有効に使う術を学んだと思います。

このように約2年という短い大学生活ではありますが、大学生活の酸いも甘いも、多少なりとも身をもって体験でき、大学への進学は有意義であったと感じております。この貴重な体験をさせてくれた両親と、それを支えてくれているたくさんの人たちに改めて感謝すると共に、残り少ない学生生活を大切に、悔いの残らないように楽しく過ごしていきたいと思います。この決意を胸に、社会で活躍することを誓います！

国際学会に参加して

博士前期課程 電気電子工学専攻1年 有馬圭輔



大学院生として日常を送る私は、自身の研究に日々勤しんでいます。研究生活では、いろいろとわからぬことや思いどおりにいかないことがあったりしますが、その度に勉強したり、いろいろと試行錯誤して自身を磨いています。研究成果を出すことも大事ですが、研究しているものに対してどのように取り組み、どのようにアプローチしていくべきよいかということが私は大切だと思っています。ですので、試行錯誤などを繰り返し、研究しているものに対するアプローチの仕方などもこの大学院生活で学ん

でいきたいと思っています。

話は変わりますが、昨年の7月に私は国際学会に参加させていただきました。指導していただいている先生から、今度、国際学会に出てみるかと言われたときは正直戸惑いました。私の英語力で研究成果を伝えられるのか不安でした。しかし、企業の国際化が当たり前となっている今、英語は重要だと思い、これは絶対によい経験になると考え、参加することを決意しました。

発表形式はポスター発表だったのでポスターの作成にとりかかりましたが、英語が得意ではない私は先生方の協力を仰ぎながら、なんとかポスターを作成しました。また、研究成果をしっかりと発表できるよう英語の勉強もしました。

発表のとき、ポスターがたくさん並び、たくさんの人で緊張しながらも、何人かの方に研究成果について興味をもっていただき、研究内容や成果を発表することができました。また、研究内容に対して貴重な意見などをいただき、参加してよかったです。

今回、私が国際学会への参加で強く感じたことは、英語力です。自分の言いたいことがすんなり伝えられない場面もあり、悔しい思いもしました。また、私が聴講した口頭発表では、発表者は流暢な英語で活発に議論しており、聞いていた私は圧倒されてしまいました。しかし、このことが自身の英語力を知る機会にもなり、以前より積極的に英語力を磨くきっかけになりました。この国際学会への参加がとてもよい経験になったと思っています。しかし、まだ学ぶべきことはたくさんあります。残りの大学院生活を悔いのないように、研究などに取り組んでいきたいと思います。

最後に、このような機会を与えて下さり、御指導、御鞭撻をいただいた先生方に心より感謝致しております。

学生生活における友人について

博士後期課程 物質生産工学専攻1年 岸田 美紗子



大学生活において得られた貴重なもの一つに、友人が挙げられる。新しい土地で新しい知人を作ることは楽しみでもあるが、人見知りである私には大学入学前は不安なことでもあった。入学して知り合った同期は、高校までとは異なり、様々な年齢の者がいて、それぞれユニークな考え方を持った者ばかりで大変刺激を受けた。また、飲みを通じて互いに多くを語り合い、その意識の高さを知ることができた。

私は学部2年生のときに大学院進学を決意したが、ここには友人の影響が少なからずあった。学部生の間、この友人達と切磋琢磨して卒業できたことは、貴重な経験だったと感じている。大学院に進学しても、同期の多くが進学していたのでここでもまた互いに切磋琢磨し、常に意識を高く持って研究に取り組むことができている。私は、この友人達が集まつたこの学年に入学できたことを心から幸運に思う。

研究室の同期は、そのほとんどが配属されてから親しくなった。所属する研究室が厳しいことで有名だったことも影響したのか、研究室に所属もしていない3年生のときから団結していたように思う。実際に、研究室に所属してからの1年間は、この仲間がいなければ辛かったと思う。また、ここで知り合った先輩方には多くのことを教わり、後輩達にも非常に助けられている。昨年までに卒業していった彼らとは、都合が合えば今でも交流し、愚痴などを聞いてもらっている。研究室における出会いは、研究生活を送る上で重要なものであり、これからも大切にしていきたい。

大学生活を送る中で、これらの友人の存在は大きな支えとなった。私は今年、博士後期課程に入学したため、多くの友人達よりも長く学生生活を送ることになった。これからも、彼らと共に経験し、学び得たことを忘れずに学生生活に励みたい。また、現課程を卒業する頃には、研究者としてさらに成長した自身を彼らに見せることができるように、日々真摯に研究に取り組んでいきたい。

留学生から

大切な経験

機械工学科 生産システム研究室 4年 ジョニー ラフマン



2004年4月2日に飛行機での9時間の長い旅を終えて、私はインドネシアのリアウ州から友達と一緒に成田空港に到着しました。そして、一年間の東京での日本語の勉強を終えて平成17年4月に鹿児島大学に入学しました。大学に入ったばかりの私はいろいろなことに対して苦労しました。例えば、授業で先生の話を聞き取れなかったり、教科書の文字が読めなかったり、言葉の使い方が分からなかったりしました。やはり一年間だけの日本語の勉強ではちょっと難しかったんだろうと思いました。しかし、よい友達に恵まれていて、分からることはいつも親切に教えてもらいましたので、一日、一ヶ月、一年と日がたつにつれて少しづつ困難を克服することができました。

私は鹿児島大学で学んで、もっとも印象に残っている科目は応用機械設計です。この授業の目的は機械を設計し、その機械の知識について理解することです。授業の中で私が設計したマシンはポンプ設計（担当は井手英夫准教授）でした。ポンプの技術や理論を学ぶ内に私はいろいろなことが分かってきました。例えば、羽根車に付いた羽根の数の違いや回転速度の違いなどです。それらの数値によってどれぐらいの高さまで水や液体を持ち上げられるか、どのくらい圧力を生み出せるかを計算することによって知ることができました。しかし、正確なデータを得るためにExcelを利用して何回も数値を変えたりして、苦労しました。このように何度も同じ作業を繰り返して、ようやく計算の作業が終わりました。

続いて機械の設計が始まりました。最初に例題の設計図を見たとき“なんだこれ!!!線だらけじゃないか”と心の中で叫びました。設計図を書き始めたときは難しかったのですが、やっているうちに図形の流れがだんだん理解できるようになってきました。これなら自分でもポンプを作れるのではないかと思いました。ところが、設計図が70パーセント完成したところで数値の合わないサイズが見つかりました。この問題を解決するために私は計算したデータを見ながら最初から設計図に目を通さなければなりませんでした。幸い、私の設計図のミスはあまり厄介ではなかったので、ちょっとした工夫で直せました。設計図を描き終わらせるためにものすごい時間がかかり、私は3回ぐらい徹夜しました。お陰で無事に締め切り日ぎりぎりに設計図を完成させることができました。

これが私が経験した応用機械設計でした。大変な作業でしたが、以前よりポンプの知識について詳しくなりました。それに、この経験はいろいろな場面に利用されているので、近い将来必ず役に立つと思います。今でも生産システム研究室で卒業論文を作るのに直接ではありませんが、応用機械設計に学んだ知識を利用しています。

2009年4月からは大学院理工学研究科（機械工学専攻）に入學し、今所属している研究室で上谷俊平准教授のもとで「溝付き平面工具を用いた押出し加工による加工表面平滑化」という研究を継続するつもりですので、またこの経験に助けられることになりそうです。このような経験をすることができるて本当によかったです。

工学部体育祭

工学部体育祭は平成20年11月22日に開催されました。参加者は305名で、学科毎に編成したチームが学科の枠を越えてソフトボール、バスケットボール、フットサルの3種目で競い合いました。日頃、身体を動かすことも少ない院生から今年入学した1年生まで300名を越える大勢の参加者のおかげで大会は大いに盛り上りました。

工学部体育祭を無事終えることができたのには、本助成金が大きな役割を果たしていたと思います。来年からも工学部学生が学科を越えて友好を図る場として工学部体育祭を設けて頂けたらと思います。
(代表者：生体工学科4年 工谷英貴)



ソフトボール



バスケットボール



フットサル

叙 勳・受 賞

*** おめでとうございます ***

<叙勲>

- ◇平成15年春 獲五等旭日賞（教育功労） 猿渡 侯昭氏（応用化学科 S23年卒）
- ◇平成17年春 瑞宝小綬賞 松元 弘己氏(故) 鹿児島高専名誉教授（化学工学科 S25年卒）
- ◇平成18年春 瑞宝中授章 布施 肇 鹿児島大学名誉教授（機械工学科）

<受賞>

*受賞年月順

◇石油学会「学会賞」（平成18年度）

受賞者：勝野 尚氏他 出光興産株式会社（応用化学科 S50年卒）

内 容：ライトナフサからの芳香族製造用ハロゲン修飾 Pt/K 型ゼオライト触媒の開発

◇NTT ドコモ九州「i アプリコンテスト appinpic 特別賞」（平成19年3月）

受賞者：薩摩 Java チーム 中山 茂 教授（情報工学科）、デエンリヤン（情報工学専攻2年）、小野 智司 助教（情報工学科）

◇低温工学協会「2007年度低温工学協会奨励賞」（平成19年5月17日）

受賞者：川越 明史 助教（電気電子工学科・電気電子平成9年卒）

◇(社)電気学会「業績賞」（平成19年5月25日）

受賞者：四元 勝一氏（電気昭和39年卒）

内 容：通信エネルギーシステムの高性能化と長年の国際標準化活動および学会活動
への貢献

◇社団法人日本建築学会「2007年日本建築学会奨励賞」（平成19年8月）

受賞者：鈴木 健二 准教授（建築学科）

内 容：「痴呆性高齢者グループホームにおけるスタッフの空間利用とケアの質的特性－痴呆性高齢者のケア環境のあり方に関する研究(4)－」

◇日本化学会第88春季年会「優秀講演賞（学術）」（平成20年3月29日）

受賞者：金子 芳郎 助教（応用化学工学科）

内 容：ヘキサゴナル相を有する一方向巻きらせんラダー型ポリシルセスキオキサン
のゾル-ゲル合成

◇日本溶射協会2008年度論文賞（平成20年6月16日）

受賞者：片野田 洋、福原 稔、飯野 直子（機械工学科）

受賞論文題目：Numerical Simulation on Impact Velocity of Ceramic Particles Propelled by
Supersonic Nitrogen Gas Flow in Vacuum Chamber

教員の異動

教員異動

<採用>

(情報)	大塚 作一	教 授	平成19年4月1日付	(株)NTTデータ技術開発本部 シニア・スペシャリスト(部長)
(海土)	柿沼 太郎	准教授	平成19年9月1日付	独立行政法人港湾空港技術研究所 関東学院大学工学総合研究所
(建築)	境野健太郎	助 教	平成19年10月16日付	京都大学大学院研究科環境地球工 学専攻 博士後期課程
(応化工)	中里 勉	准教授	平成20年1月1日付	群馬大学大学院工学研究科環境プロ セス工学専攻 助教
(建築)	二宮 秀興	教 授	平成20年4月1日付	大阪市立大学大学院生活科学研究 科 准教授
(機械)	村上 洋	助 教	平成20年9月1日付	福岡県工業技術センター機械電子 研究所 主任技師
(建築)	黒川 善幸	准教授	平成20年10月1日付	名古屋大学大学院環境学研究科都 市環境学専攻 助教
(生体)	岡村 純也	助 教	平成20年11月1日付	総合研究大学院大学葉山高等研究 センター 上級研究員

<昇任>

(海土)	山口 明伸	准教授	平成18年12月1日付	海洋土木工学科建設システム工学 講座 助手
(建築)	鈴木 健二	准教授	平成19年2月1日付	建築学科居住環境構成学講座 助 手
(応化工)	甲斐 敬美	教 授	平成19年4月1日付	応用化学工学科化学システム工学 講座 助教授
(建築)	本間 俊雄	教 授	平成19年9月1日付	建築学科建築構造構成学講座 准 教授
(電気電子)	川畑 秋馬	教 授	平成20年1月16日付	電気電子工学科電気エネルギー工 学講座 准教授
(電気電子)	山本 吉朗	准教授	平成20年9月1日付	電気電子工学科電気エネルギー工 学講座 助教

<転 出>

(建築)	赤坂	裕	教	授	平成19年3月31日付	独立行政法人国立高等専門学校機構鹿児島工業高等専門学校 校長
(機械)	飯野	直子	助	教	平成19年10月31日付	熊本大学教育学部 准教授
(機械)	中野	寛	助	教	平成20年3月31日付	東京工業大学大学院理工学研究科助教
(生体)	鈴木	航	助	教	平成20年3月31日付	独立行政法人理化学研究所脳科学総合研究センター 研究員

<退 職>

(機械)	浜崎	和則	教	授	平成19年3月31日付
(電気)	吉田	宏	教	授	平成19年3月31日付
(電気)	宮崎	智行	教	授	平成19年3月31日付
(建築)	松永	安光	教	授	平成19年3月31日付
(応化工)	染川	賢一	教	授	平成19年3月31日付
(応化工)	高橋	武重	教	授	平成19年3月31日付
(海土)	櫻井	仁人	助教授		平成19年3月31日付
(情報)	高橋	行俊	教	授	平成19年3月31日付
(電気電子)	篠原	勝次	教	授	平成20年3月31日付
(海土)	佐藤	道郎	教	授	平成20年3月31日付
(情報)	村島	定行	教	授	平成20年3月31日付
(生体)	広岡	繁	教	授	平成20年3月31日付
(建築)	安山	宣之	准教授		平成20年3月31日付

部会だより

機友会

機友会支部の活動状況

今年度は平成21年度3月に工学部総会の開催年に当たり「本部」機友会総会は次年度に開催される。また、同窓会名簿発刊のため本会報は昨年度ではなく今年度発刊される。従って、昨年度開催された総会を報告する。本部総会は、平成19年12月1日ホテルパレスイン鹿児島にて南光成（S34卒）関東支部長、下茂忍（S34卒）関西支部長、米倉央（S30卒）中京支部長、佐藤寿文（S43卒）福岡支部副支部長の来賓のもと参加者89名で、皮籠石紀雄（S45卒）庶務幹事の司会進行により開催された。総会では議長選出後、福原稔（S56卒）会計幹事による会計報告のほか監査報告、機友会の運営、会則改正等が話し合われ、会則の改正等が承認された。従来、本部の庶務、会計、編集等の業務は、在学生及び卒業生の把握から本会の同窓生の現教員によって運営してきた。改正の主旨は将来的な運営面から編集、会計等に関して、若干名の本会特別会員（現教員等）にご協力を戴くようとするものである。総会終了後は、九州三井アルミニウム工業（株）常務取締役製造本部長の村瀬正教氏（S47卒）による「アルミニウム精錬産業の歴史と展望」と題した講演会が開催された。村瀬氏



村瀬正教氏による講演

の人柄とこれまでの仕事上のご経験を彷彿させる面白い貴重なお話であった。

懇親会は、井手英夫（S48卒）編集幹事による司会進行により高崎征忠（S39卒）会長挨拶の後、岸園司（S30卒）^{*注}工学部同窓会長、福井泰好工学部長、機友会各支部長のほか恩師の末永勝郎、中島



平成19年12月1日（土）本部総会写真（最前列中央左から4番目 故岸園司氏）

繁、松村博久、田中義弘、田中秀穂の各先生及び現教員の福原稔（S56卒）会計幹事、木下英二、片野田洋、大高武士の先生方のご挨拶を皮切りに、当日参加した学部学生及び大学院学生及び同窓生を交え、なつかしく、にぎやかな宴が盛会のうちに終了した。



平成19年12月1日(土) 本部総会写真

「福岡支部」の総会は、後藤康史氏（S52卒）が幹事を務められ、平成20年9月27日に福岡市「セントラルホテルフクオカ」で山本祐介支部長（S46卒）以下19名が出席して開催され、機友会本部から田中秀穂（S30卒）、高橋肇（中央実験工場）の両先生及び皮籠石紀雄庶務幹事が出席された。総会では、新役員及び新幹事として支部長佐藤壽文（S43卒）、副支部長後藤康史、幹事長田中宣秀（S58卒）、会計幹事牧迫浩二（S56卒）、会計監査藤野秀夫（S54卒）、顧問井上孝信（S54卒）が選出された他に、支部総会時期について、原則開催年の9月の第1土曜日に総会を開催することが了承された。



平成20年9月27日(土) 福岡支部総会写真

「関西支部」の総会は、当番幹事会社が中山製鋼（株）で藤井和明（S50卒）氏（代表幹事）、渡辺秀幸（S52卒）氏、兼重博（S53卒）氏のほか10名の方が幹事を務められ、平成20年7月5日に大阪市北区梅田「大阪第一ホテル」で下茂忍支部長（S24年卒）以下48名が出席して開催された。機友会本部から高崎征忠機友会会長を始め、恩師の浜崎和則（S



平成20年7月5日(土) 関西支部総会写真

38卒)先生と現教員の井手英夫編集幹事、木下英二の両先生が出席された。当 日は、同窓会の盛会への方策として「微細粒熱延鋼板の製造技術」と題して、中山製鋼(株)の向原崇氏(H9卒)による講演

会が開催され盛会であった。懇親会は、佐伯公範氏(S50卒)の司会進行により下茂忍(S34卒)支部長、来賓(井手編集幹事、木下先生、浜崎先生)の挨拶の後、参加者全員による年度別及びテーブル別のスピーチがあり宴も大いに盛り上がった。最後に、次年度幹事は、S41卒、S51卒、S61卒、H8卒、H18卒の方々で開催日は平成21年7月4日が予定され、万歳三唱の後、盛会のうちに閉宴した。

「中京支部」の総会は、トヨタ車体(株)が幹事会社となり、高宗洋介氏(S44卒)、川崎修一氏(H14卒)、松田修一氏(H14卒)が幹事を務められ、平成20年7月4日に愛知県岡崎市「岡崎グランドホテル」で米倉央支部長(S30卒)以下35名が出席して開催された。機友会本部から井手編集幹事及び木下英二の両先生が出席された。

米倉支部長挨拶のあと、来賓挨拶、乾杯に続き、米山氏(S28卒)、星野氏(S33卒)、上山氏(H18卒)、新福氏(H18卒)、山下氏(H18卒)など出席者全員の自己紹介があり、応援歌、万歳三唱の後、盛会のうちに閉会した。また、総会では来年度の幹事会社はアイシン精機が担当し、青木幸久氏(S49卒)が代表



平成20年7月4日(金) 中京支部総会写真

幹事で来年度の開催日は平成21年7月3日に開催することが了承された。

「関東支部」の総会は、平成20年11月29日に東京、三州倶楽部にて約30名が参加し開催された。来賓として連合会関東支部会長の今村彬氏（電気出身）も参加され機友会本部から皮籠石紀雄庶務幹事及び恩師の中島繁の両先生が出席された。総会では、役員の交代と活動報告がなされ、新支部長に中川正人氏（S43卒）が選出され、他の役員等も改選されることなどが話し合われた。その後、オイレス工業（株）の河内山修氏（H6卒）による「地震と免震」と題した講演会が開催され、最新の開発の現状と技術が紹介された。

*注：本会報に追悼文がありますように、工学部同窓会会长をされていた岸園司（S30卒）氏は平成20年8月28日に急逝された。岸園氏の大学及び工学部への思い、機友会に対する多くの御貢献に対してここに、深甚なる謝意と深い哀悼の意を表します。

錦水会

錦水会 HP <http://kinsuikai.mydns.jp>

平成20年度 本部総会（福岡支部総会）開催

錦水会本部総会が11月29日（土）福岡市の電気ビルに於いて、64名が出席し盛大に開催されました。今回は初めての試みとして、福岡支部総会との共催となりました。総会に先立つ講演会では、小山一民氏（九州電力取締役常務執行役員、電気S44卒）に、電気事業における低炭素社会に向けた取組みについてご講演いただきました。総会では、有馬純治会長（電気S41卒）より、錦水会活性化のための事業方針、活動報告および計画について説明があり、承認されました。今回、次年度役員が決定され、会長として関西支部長蓮尾氏（電気S50卒）、副会長として東海支部長 永野氏（電気S46卒）、現会長 有馬氏（電気S41卒）が選出されました。

共催の福岡支部総会では、福岡支部の新役員が選出され、福岡支部長が植崎彦三氏（電気S45卒）から阿南文政氏（電気S48卒）へバトンタッチし、編集幹事として森田友次氏（電気S49卒）が選出されました。



関東支部～平成20年度関東支部総会

関東支部 亀澤 和雄（電気S34卒）

10月25日（土）、関東支部総会が東京田町のキャンパス・イノベーション・センターにおいて開催されました。本年度は鹿児島大学8学部の関東連合会同窓会の設立総会が9月13日に開催され、引き続きの総会になりましたが、43名の参加をいただき盛大に開催することができました。大学からの来賓として、電気電子工学科の高田等先生と情報工学科の

大塚作一先生にご出席いただきました。また、東京在住の志村先生にもご出席いただきました。総会では、電気 S36 卒宮内さんの司会で、亡師亡友の慰靈黙祷、会長挨拶のあと議事に入りました。議題についてそれぞれ報告があり、拍手で承認されました。

その後、来賓の先生の講話がありました。高田先生からは電気電子工学科の現状報告がありました。大学も法人化され、職員の数が減っていること。日本技術者教育認定制度（JABEE）中間審査に合格したこと。工学部と理工学研究科の改組、さらに研究成果についての報告がありました。大塚先生からは工学部の組織改正と募集人員が440名になること。トピックスとして学生の銀行への就職状況などについて説明がありました。また先生のご出身と職歴および研究について興味深い話がありました。

総会のあと集合写真を撮影、場所を移して懇親会となりました。まず、乾杯で懇親会がぎやかに始まりました。今回は各人が日頃取り組んでいる趣味別に、テーブル分けをしました。趣味を通じての友人をたくさん作るためです。各テーブルではビールや焼酎を傾けながら話が弾んできたところで、代表がテーブルごとの話題を発表。懇親会が盛り上がりってきたところで本日のメインイベント「ジャンケン大会」が始まりました。ジャンケン大会のあとは「北辰斜め」の大合唱で総会を終えました。



関西支部～錦水会関西支部のご紹介

関西支部長 蓮尾 泰三（電気 S50 卒）

平成20年2月に、支部長を拝命いたしました蓮尾です。当支部の対象エリアは、近畿圏はじめ中国・四国地区で会員数は、名簿上309人です。例年2月に開催いたします支部総会・懇親会参加者は、50数名を維持しており、会場は長年会員所属の関西電力殿の厚生施設を安価に利用させていただき、当日会費収益のみで年間の支部運営費を捻出する自己完結型を歴代先輩達は維持してこられました。支部総会関係の内容や盛り上がり状況は、錦水会ホームページをご参照いただくと致しまして、今回は、これらの活動を支える支部幹事役員達の頑張りぶりと、顔ぶれをご紹介させていただきます。

写真は、11月17日（月）支部幹事会の第2回開催時のものです。中央の横瀬前支部長は、任期4年の間に支部総会参加者数50人超を定着させ、数少ない女性会員や若手会員の参加促進（秘）策を推進、参



加者の約3割が入替わり、3分の1が平成卒業の若手が占める総会に活性化させた功労者です。今回は、支部の抱える重要継続課題にご助言いただきました、パナソニックG担当の加藤三三男幹事欠席のため、ご参加願いました。他は、恒例の支部総会準備の新しい役割分担をワイワイ・ガヤガヤやって、少し疲れ気味の新幹事達です。支部歴代幹事は、関西圏に散在する企業の現役管理職達で、集合できるのも19時と言いつつもこの日も揃ったのは、20時前。待ちわび出来上がった組と、駆付け一杯で空腹を満たしながらの組との会議。お開きは22時15分を過ぎておりました。オヤットサー!!!

東海支部～東海支部のご紹介

東海支部長 永野 博（電気 S46 卒）

平成20年8月より、東海支部長を担当しております、永野博です。寄稿依頼を頂きましたので、東海支部の紹介をさせていただきます。

我が東海支部は、トヨタさんを中心車関連の企業が多くを占める地域で、当然ながら、支部会員も何らかの面で、車に関連ある方々が少なからず、と言う環境です。地域性から見ると、織維の岐阜県、伊勢志摩観光の三重県、製造の愛知県、楽器・車の静岡県と言うように、それぞれの特徴を發揮しています。

毎年の支部総会では、S23年卒の宗方さん、それに続く西さん、東京から馳せ参じて頂いています木脇さんのバイタリティーある話を聞くにつけ、勇気付けられます。仕事、人生観、…、人生経験豊な先輩諸氏の話に、引き込まれます。また、若者グループでは、谷口さん、渡辺さんが中心となり、この支部を引っ張ってもらっています。製造業と言う所以もありますが、小支部もあって、問題解決には、即寄り合いを持ち、できるだけペンドイングをなくし、フットワークを軽くしようと努力しています。

自己紹介を少々

- S46年電子工学科第1回卒（名古屋、富山、東京と動いてきました。）
- 趣味：テニス（最近60肩？で、苦しめられています。）/最近、フォークギターを少々
- 性格：まず、自分でやる。やってから、言う。やらなければ、変わらない。



ねんりんピック鹿児島
テニス会場にて

熊本支部～第13回錦水会熊本支部総会報告

熊本支部長 渋谷 博司（電気 S44 卒）

2008年6月28日（土）に熊本城近くのKKRホテル熊本で、大学から渕田先生にお出でいただき、また皆さんの勧誘協力で、近年になく総勢16名の出席で開催できました。

活動案は前年度と同じく「支部総会を通した産学交流の促進」と、「支部基盤の強化活動」のために、熊本地区に就職した新卒者の把握と支部総会参加の勧誘、また支部総会に吸引力を持たせる為に、発表・討議の発表タイムの設けることとし、また平成20年度予算案と前年度の会計報告が承認されました。前年度の活動案に沿って今回の総会案内は新卒者を含め、本部データに基づき従来の倍の約150名に案内を出しましたが、期待程の効果は見られませんでした。しかし、次回参加につながる連絡網ができました。



渕田先生からは、法人化された鹿大の近況報告として、カリキュラム評価や学生の成績評価が5段階になった等の紹介をしていただきました。「私の失敗経験・K/H・発見」発表タイムでは、全員から近況報告や事例発表がありました。今回は特に独身主義と思われていたKさん（S53）の結婚、Kさん（S44）の再婚のおめでたい報告もありました。引き続く懇親会の乾杯は初参加の甲斐先輩（S34電気卒）にお願いしました。二次会は、会の終わりごろに降り始めた雨の中、西銀座通りに繰り出しました。熊本支部は会長（渕谷博司）庶務幹事（前田 厚）会計幹事（澤山善治）編集幹事（前田 厚）監査員（牛島憲二）の体制で運営します。従来、監査員は桑原君（S44）でした。

宮崎支部～近況報告

宮崎支部長 石川 均（電気 S42卒）

錦水会 宮崎支部です。

宮崎は昭和十代前半から県が水力発電開発を手がけ、早い時期から技術者を求めてきたことから、支部会員には工専時代のOBを始め高齢の会員も多く、一方最近は放送関係を中心に若い世代が増えているなど幅広い年齢層で構成されています。

今年の支部総会は、鹿児島から今年度まで退官される柚木先生をお迎えして、10月18日（土）に市内の割烹で行いました。会場が少々狭く肩すりあわせながらの談笑でしたが、これもまたいいでしょう。只、今回は参加者それぞれの予定が折あしく重なり、14名と近年になく少人数になってしまったのが残念です。

総会ではこの一年の歩みや錦水会全体の動き、会計報告等を行い懇親会に入りました。先生からは大学や学生の現状と柚木研究室の紹介が、そして会員の近況、趣味の紹介など、和気相合の有意義な時間が過ぎました。

今、学窓への回帰や先輩後輩の関係が、そし



て横のつながりさえも希薄になりがちなとき、世代は越えても同じ釜の飯を食った者同志だけが持てる時間の大切さを一人ひとりが味わったものです。

最後は巻頭言に続く北辰斜め、記念祭歌にスクラムを組み、徒党を組んで夜のネオンに紛れ込んで行きました。

鹿児島支部～平成20年度鹿児島支部総会

鹿児島支部 編集幹事 池田 浩二（電気 S51 卒）

鹿児島支部総会が10月25日、会場を鹿児島市から初めて移し、霧島市国分中央で開催されました。地元工場のソニーセミコンダクタ九州、京セラ、鹿児島高専の教員からを含め60人ほど（初参加25人、平成卒18人）が出席しました。総会に先立つ講演会では、旧教官の村島先生が最近の世界経済の動きを始めとする研究成果・世界観を得意の村島節で講演されたのを始め、旧教官の広岡先生からは在任時代の写真などを使って、教官や講師の方々の往来や学科の変遷などを思い出たっぷりに振り返って講演がありました。大学からは電気電子工学科の現教官、宮島廣美先生から工学部の現状と来年4月からスタートする工学部の改組等について報告がありました。

総会では、まず亡師亡友に黙祷をささげたあと錦水会鹿児島支部の有馬純治支部長が挨拶し、今年度の経過や今後の活動予定について報告がありました。例年通り錦水会本部の動静、本部予算などについて多岐にわたり、予定を20分以上超える熱い論議が交わされました。懇親会は会場を国分駅前の旅館に変えて開かれ、地元国分在住の電気昭和28年卒の芝長義さんの乾杯で始まり、ソニーセミコンダクタ九州、京セラ、鹿児島高専、鹿児島県工業技術センターからの会員、初参加の会員、招待の新卒会員、および招待の学生会員がそれぞれグループで壇上にあがり、自己紹介等し会員相互の交流をはかりました。



学内報告

学内編集幹事 重井 徳貴（電気H4卒）

平成20年度 新入生歓迎ウェルカムパーティー

サンロイヤルホテルの昼食バイキングを利用し開催されました。4年目となる本企画は、新入生の歓迎を通して、錦水会のPR、そして社会で活躍している先輩および教員と交流することで学生生活を有意義なものにしてもらいたいという意図で毎年開催しています。5月16日は電気電子工学科81名、5月23日は情報工学科63名の新入生が参加しました。

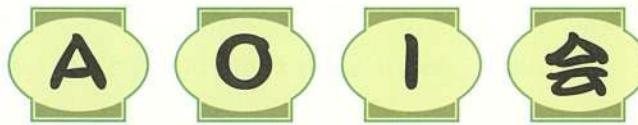
平成20年度 きばっど会

6年目となる学生講演会「きばっど会」が開催されました。山崎勝也氏（電気S50卒、三菱重工業 名古屋誘導推進システム製作所 副所長）、永友康二朗氏（電気電子H15卒、ソニーセミコンダクタ九州）のお二人に、これから就職活動を開始する在校生たちに向け、ご講演いただきました。例年、鹿児島の総会に合わせ、土曜日開催でしたが、今年は、初めての平日開催でした。過去最多の150名以上の学生が参加し、大盛況でした。

学生の受賞

※受賞日順、学年は受賞当時

- ・堀江勝大（情報工学専攻 修士1年、指導教員 渡邊睦 教授）
2008年年次大会 学生優秀発表賞、映像情報メディア学会、平成20年10月
- ・岩川建彦（システム情報工学専攻、指導教員 中山茂 教授、小野智司 助教）
天才プログラマー／スーパークリエータ、情報処理推進機構、平成20年5月
- ・内 和彬（電気電子工学専攻 修士2年、指導教員 宮島廣美 教授）
情報処理学会 九州支部 奨励賞、平成20年3月
- ・長嶺信也（電気電子工学専攻 修士1年、指導教員 宮島廣美 教授）
情報処理学会 九州支部 奨励賞、平成20年3月
- ・電子情報通信学会 九州支部 学生会講演奨励賞、平成20年3月
- ・徳田将展（電気電子工学専攻 修士1年、指導教員 住吉文夫 教授）
平成19年度 低温工学協会 九州・西日本支部 支部長賞、平成20年1月
- ・佃 信児（電気電子工学専攻 修士2年、指導教員 住吉文夫 教授）
平成18年度 低温工学協会 九州・西日本支部 支部長賞、平成19年3月
- ・西元琢真（電気電子工学専攻 修士2年、指導教員 山下喜市 教授）
電子情報通信学会 九州支部 学術奨励賞、平成19年3月
- ・山崎 節（情報工学専攻、指導教員 中山茂 教授、小野智司 助教）
情報処理学会 九州支部 講演賞、平成19年3月
- ・今別府考洋（情報工学科、指導教員 中山茂 教授、小野智司 助教）
情報処理学会 九州支部 講演賞、平成18年3月



AOI会の会員の皆様、ご健勝のこととお慶び申し上げます。AOI会関係の近況をご報告します。

○総会の運営体制の変更

2004年の総会で総会の運営体制を変更することが決定しております。以前は本建築学科に所属しております卒業生の教員が世話をされておりましたが、2006年度以降の総会では、運営を鹿児島県内の建築設計事務所・建設業に所属されている卒業生会員のグループと、鹿児島県庁や鹿児島市役所の卒業生会員のグループで交互に、2年に一回の総会運営を担当してもらうことになりました。2006年度は熊谷良博（鹿児島県庁）を中心に鹿児島県庁勤務の卒業生に担当して頂きました。2008年度は武田敏郎氏（AOI会会長）を中心に鹿児島県内の建築設計事務所・建設業の卒業生に担当して頂くことになりました。盛会が期待されております。

○第4回建築ナビ「先輩と進路・就職を語る会」の開催報告

同会は2002年から隔年毎に開催され、今回が第4回になりました。写真（次頁）にありますように在学生が自主企画し、自分たちが興味を持つ職場の先輩をお呼びして各職場の状況や経験を聞く会です。2007年度は武田新会長の指導の下、特別企画として奇数年でも開催することになり、鹿児島市内在住の先輩方に集まって頂き、後輩と交流する会が開催されました。参加学生は2年生と3年生で約90名でした。

午後3時から午後5時まで稲森会館で先輩方に職業・社会・人生観を話して頂き、その後、学生主催の歓迎パーティーが教育学部エデュカで開宴され、卒業生教員も交えて個別の交流がなされました。学生にとって極めて有意義なものになったようです。今後も継続して同会を開催できるようにAOI会も支援してゆく計画でおります。参加してくださった先輩方は以下の方々で、無報酬で協力して頂きました。有り難うございました。また後輩から声がかかった際には、ご協力をお願いします。

日：平成19年11月19日（月） 場所：工学部稲森会館、懇親会：教育学部「エデュカ」

講演：岩田寿海（昭和56年、下舞設計）、池水聖子（平成元年、鹿児島県青年会議所）、日野真琴（平成7年、日野建築設計室）、懇親会参加：下山道男（昭和55年、グリフィンアーキテクト）、村山みほ（平成12年、鹿児島市役所）、井邊裕和（平成13年、鹿児島市役所）、當房和博（平成17年、鹿児島市役所）、蛭子美紀子（平成17年、トヨタホーム）

○AOI会設計優秀賞の受賞式

武田敏郎会長の発案で新たに「AOI会設計優秀賞」が創設されました。これは同窓会が在学生の設計活動を励ます主旨のものです。1年生から3年生が対象で、各学年で年間

を通して優秀な設計課題の作品を最も多く提出した学生に送られます。第1回の受賞は1年生が住田良平君、2年生が東佑二郎君、3年生が瀬戸口博美さんでした。在学生の皆さん、受賞を目指して頑張ってください。授賞式の模様は写真的とおりです。

○厄払い会

鹿児島本部では毎年、2月に厄払い会を開催しております。AOI会の総会が開催される年は総会の懇親会と合同でやることになっております。平成19年度は奇数年で単独の開催になりました。会の状況は写真的とおりです。都合がつけば是非参加して頂きたいと思います。

○関西 AOI 会の総会

平成20年9月27日に大阪市で関西支部の支部総会と懇親会が開催されました。参加者は35名で、元教官の三谷先生と内田先生また本学の徳富先生が出席されております。若い卒業生の参加が少ないようです。最近の卒業生も是非、参加して頂きたいと思います。

○AOI 会北九州支部の総会

平成20年12月6日に福岡市でAOI会北九州支部の支部総会と懇親会が開催されました。参加者は88名で、元教官の三島先生、多良島先生、土田先生、黒木(荘)先生、黒木(康)先生また本学の徳富先生が出席されております。また毎年、12月初めの土曜日と決まっておりますので、最近の卒業生も是非、参加して頂きたいと思います。

○各支部の年会と日程

各支部では定期的に年会が開かれております。機会がございましたら各支部の年会に出席して同窓生間の交流を深めていただきたいと思います。

鹿児島本部	次回の本部総会	2011年2月第2土曜日（庶務幹事・塩屋、末尾を参照）
厄払い会	毎年2月	金曜日（連絡先：塩屋まで）
大分支部	工学部同窓会として開催（毎年）	連絡先：0977-25-1221（和田支部長）
北九州支部	毎年12月の第1土曜日	連絡先：092-863-1158（四元支部長）
関西支部	毎年9月ごろ	連絡先：06-6947-1961（米 支部長）
関東支部	工学部同窓会として開催	連絡先：03-3452-3201（塘 支部長）

○AOI会の名称の由来

野村孝文先生が学科長の頃、学生と麻雀をしている際に案が出され、昭和27年に最終的に福島正人先生と学生との話し合いで決められた。由来はつぎのとおりです。

卒業してから「あ、おい、飲もうかい」の「あ」、「おい」の「お」と「い」、および「飲もうかい」の「かい(会)」をとって「あおい会(AOI会)」になったとのことです。

文責 庶務幹事 塩屋晋一（昭和57年卒業）



平成19年 AOI 会厄払い対象者



AOI 会本部厄払い会懇親会（平成20年2月23日）



建築ナビ2007「第四先輩と進路と就職を語る会」風景（平成19年11月19日）



第1回 AOI 会 設計優秀賞受賞者
(平成20年5月20日)



関西 AOI 会総会（平成20年9月27日）

南窓舎密会

南窓舎密会の部会便りとして、平成20年度南窓舎密会総会資料およびその後の関係事項を報告致します。第16回南窓舎密会総会は、5月の第2土曜日（平成20年5月10日）にホテル満秀で開催されました。本年度からホテルの場所が変更になりましたが、皆様のご協力のおかげで混乱もなく無事に総会及び懇親会を終えることができました。また、来賓として会長の鎌田先生をはじめ、島田先生、竹下先生、田中先生、前田先生、高橋先生、染川先生にご出席して戴きました。また、関東、関西、北部九州支部からもご出席して戴きました。総会及び懇親会の出席者は45名でした。



第16回 南窓舎密会 総会 平成20年5月10日 於：ホテル満秀

また、学生会員に早めに卒業・修了後の進路について考えて欲しいとの思いから、応用化学工学科と南窓舎密会との共催の下に稲盛会館で「先輩の話を聞いてみよう」というテーマで同日に講演会を開催致しました。以下は講演内容の概略です。

◆吉村 浩幸 氏

昭和61年応化院修、東ソー(株)研究企画・生産技術部 参事 主席研究員
『グローバル社会で活躍する若い研究者へ』

1986年東ソー入社以降、南陽研究所において「ポリウレタン用アミン触媒の開発」、「アミン系誘導体の開発」に従事し、新規触媒の開発およびプロセス開発、また開発した製品の国内外での技術サービスを経験した。これらを例に、企業の研究開発において若い研究者が心がけたいポイントとして、①顧客ニーズを的確に把握し研究開発

に反映させる、②基礎的な分析・解析、評価技術の構築、③開発技術や製品を特許権利化し積極的に情報発信、④製造・営業・研究の三位一体となった製品開発、⑤産官学、異業種交流の重要性について概説します。

◆坂木 剛 氏

昭和49年化工院修了、産業技術総合研究所バイオマス研究センター九州センター主任研究員

『石炭とバイオマスとエネルギー』

昭和50年にスタートした新エネルギー開発のための国家プロジェクト「サンシャイン計画」における石炭液化技術の開発研究に従事した時の話。そして現在、地球温暖化防止、持続的発展可能社会構築の観点から進められているバイオエタノール生産研究に従事している話をしたいと思います。その中で(独)産業技術総合研究所の紹介を交えながら、研究生活の楽しさを知ってもらえばと考えております。

経過報告

平成20年度南窓舎密会経過報告

H20. 3. 7	南窓舎密会総会準備学内幹事会（於：応化棟会議室、出席者：平田幹事、吉留幹事、満塙幹事、山本幹事、下茂幹事）
H20. 3.21	南窓舎密会総会準備幹事会（於：ホテルシルクイン） (出席者：鎌田会長、松山副会長、染川幹事、高橋幹事、吉留幹事、満塙幹事、山本幹事、下茂幹事)
H20. 3.25	応用化学工学系卒業・修了証書授与式および祝賀会 (於：共通棟301号室、南窓舎密会関係出席者：鎌田会長)
H20. 5.10	「先輩の話を聞いてみよう」講演会 講演者：鳥井 敬志氏、島之江 憲剛氏 出席者77名
H20. 5.10	第16回南窓舎密会総会および講演会（於：ホテル満秀） 出席者45名
H20. 6.21	工学部同窓会大分支部総会に鎌田会長が出席
H20. 8. 8	オープニングパス 「粉粒体挙動の不思議」伊地知和也 教授 「暮らしの中の化学」 下茂 徹朗 准教授
H20. 8.22	工学部同窓会拡大幹事会（於：工学部管理棟3F 大会議室、出席者：鎌田会長、下茂幹事、吉留幹事、満塙幹事）
H20.10. 6 ～10. 7	応用化学コース JABEE 中間審査
H20.10. 9	南窓舎密会設立50周年記念事業学内実行委員会
H20.11. 1	南窓舎密会関西支部総会

●会員の活躍（一部別ページと重複）

○叙勲（情報の入ったものは年度に関係なく掲載しております）

- ・猿渡 侯昭氏（応用化学科 S23年卒）
2003年度春の叙勲 納五等旭日賞（教育功労）
- ・松元 弘己氏（故）（化学工学科 S25年卒）、鹿児島高専名誉教授
2007年度春の叙勲 瑞宝小綬賞

○受賞（2006年10月～2008年10月）

【会員】

- ・勝野 尚氏（応用化学科 S50年卒）、出光興産株式会社 2007年度 石油学会 学会賞
(主要メンバーの一人として)
「ライトナフサからの芳香族製造用ハロゲン修飾 Pt/K 型ゼオライト触媒の開発」

【教員】

- ・金子 芳郎助教、2008年3月29日 日本化学会第88春季年会優秀講演賞（学術）
「ヘキサゴナル相を有する一方向巻きらせんラダー型ポリシルセスキオキサンのゾルゲル合成」

【学生】

- ・前田 智広君(D3) 2007年3月26日 日本化学会第87春季年会 学生講演賞
「鋭敏な温度応答性を有するアクリルアミド型機能性高分子のコアセルベート形成」
- ・日高 隆太君(M2) 2007年3月26日 鹿児島大学工業俱楽部賞
「環境負荷低減化をめざした封着加工用鉛フリーガラスの開発」
- ・林 菜津美さん(M2) 2007年7月7日 第44回化学関連支部合同九州大会 化学工学分野 ポスター賞
「脱窒細菌を固定化するカプセル型マイクロバイオリアクターの開発とその脱室処理能評価」
- ・島村 亮君(M2) 2007年7月27日 第18回若手ケミカルエンジニア討論会 ポスター賞受賞
「バイオディーゼル燃料製造における廃食油の前処理に関する研究」
- ・赤崎 祐介君(M2) 2007年11月15日 九州地区高分子若手研究会・冬の講演会 ポスター賞
「アクリルアミド型機能性高分子のコアセルベートを用いたハイドロゲル微粒子の調製」
- ・山元 美佳さん(M1) 2008年7月5日 第45回化学関連支部合同九州大会高分子部門九州地区若手奨励賞
「温度応答性ブロックポリマーのフェリチンタンパク質への固定化と機能評価」
- ・俣木 祐子さん(M1) 2008年7月26日 第19回若手ケミカルエンジニア討論会 ポスター賞

「KOH を触媒としたバイオディーゼル燃料の製造条件の最適化」

・園田 瑛子さん(M1) 2008年7月26日 第19回若手ケミカルエンジニア討論会 ポスター賞

「自己修復能を有するインテリジェントマイクロカプセルの構造制御」

●スポーツ

2008年10月18日（土）に、教育学部グラウンドにて応化工・ナノ・生体工合同秋季ソフトボール大会が開催されました。当日は絶好のソフトボール日和で、応化工、生体工およびナノ専攻から13チームが参加し、さわやかな汗を流しておりました。なお、試合の結果は以下の通りです。

1位 下茂研究室（応化工）

2位 大木研究室（生体工）

3位 杉村研究室（生体工）

4位 伊地知研究室（応化工）

下茂研と伊地知研は毎年上位に食い込んでいる強豪チームです。今年も強かったです！



1位 下茂研究室



4位 伊地知研究室

●お知らせ

南窓舎密会は平成23年に設立50周年を迎えます。総会と懇親会を例年5月に行っておりますが、平成23年度は50周年の記念式典も開催する予定です。式典開催の折には会員の皆様にお知らせする予定ですが、住所などの変更があった方は南窓舎密会事務局（nansei@apc.kagoshima-u.ac.jp）までご連絡をいただけすると幸甚です。

また、情報は隨時「南窓舎密会ホームページ」(<http://jaddo.com/nansouseimikai/>)にも掲載いたします。



しらなみ会 活動状況

「本部 近況報告」

会長 萩 亮

しらなみ会会員の皆様、お元気でご活躍のことと思います。

平成19年2月に第14回しらなみ会総会を開催し、皆様にお会いしたのもついこの前のような気がしますが、早2年が経過しようとしています。同窓会では、大学院在学中の留学生の参加も得て80名を超える盛会となり、参加していただいた先生方や会員の皆様方にこの場を借りて改めてお礼申し上げます。また、20年5月には、佐藤道郎先生退職記念事業会により「レインボーヤシ島」で祝賀会が開催され、ここでも多くの同窓生各位とお会いできました。佐藤先生は、御退職前一時体調を崩されました。当日はお元気なお姿で祝賀会も盛会のうちに終わりました。御退職後は、私の職場でお願いしている県港湾関係の各種委員会にも数回出席していただいており、すっかりお元気になられて活躍されていることを皆様にご報告申し上げます。

関東、関西、福岡の各支部でも懇親会等を開催していただきており、支部長さんをはじめ開催の労を取っていただいている方々にお礼を申し上げます。今後とも、明日への活力につながる同窓会活動になればと思っております。皆様のご協力をよろしくお願いします。

「関東支部 近況報告」

関東支部長 黒木 敬司

平成19年には、関東支部発足以来の懸案事項であった、工学部関東全体での合同同窓会のお世話役をおおせつかり、10月19日（金）に目黒の三州俱楽部において盛会のうちに無事役割を果たすことができました。岸薗会長（故人）を始めとする先輩方から、ようやく海洋土木が一人前の学科として皆さんの世話役を担当することができてうれしい次第であるとのお褒めのお言葉をいただきました。学科からは松本先生に来賓としてお越しいただき、合同同窓会に引き続き行った海洋土木OBとの懇親会でも楽しい時間を過ごすことができました。また、平成20年9月13日には、「鹿児島大学同窓会関東支部設立総会」に有志が出席し、旧制第七高等学校造士館から続く鹿児島大学の歴史を感じることができました。11月28日には、久しぶりにしらなみ会関東支部の忘年会を開催し旧交を温めようと考えております。

「関西支部 近況報告」

関西支部幹事 田平 正文

まず、関西支部の平成20年度の活動については、平成20年5月23日に会員の転勤に伴う送別会を、8月26日、10月15日には幹事会を開催し、恒例の忘年会（平成20年12月10日（水）、場所時間未定）を開催する予定にしております。関西支部の会員状況は、昭和52年卒（1期生）の石田支部長をはじめ、平成19年卒の会員の方まで現在約40名の会員を擁する支部となっており会員の年齢層も幅広いため把握も大変になっております（失礼ですが、当幹事会が確認できていない方も多数関西におられると思います）。そのため福岡支部同様に、卒業年度を5～7年に区切りその段階ごとの担当幹事を設定し、会員拡大や会員交流を目標に幹事会を隨時開催しております。また年1回は、会員の方々の情報交換や友好交流の場を開催しようと考えております。会員の勤め先は、官公庁・民間建設会社・コンサル等多岐に渡り、時代の流れか先輩後輩という昔の古きよき（我々が勝手に思い描く？）慣習が薄れ、会員の情報を把握しにくい時代や環境になっております。

また、我々が携わる建設業界も公共事業費の減少で、会社経営環境がより厳しくなってきています。さらに今後の経営環境は、より厳しくなり企業統合・合併または倒産が生じてくると予想されております。その状況のなか、各人の苦労を聞き、各人の頑張りに励まされまた癒されるができるのは、同じ大学の学生食堂でAランチを食べた同窓生ではないでしょうか。また騎射場のどんぐり横丁で、『しらなみ』・『いさにしき』等の焼酎を飲んだ仲間達ではないでしょうか。学生時代を顧み、各人の思い出を語り合うことは、勤務先の付き合いでは味わえないものがあると考えます。関西にいる会員が、家族や自分のために『これからもがんばれる元気』をもらえる場となるように、支部長をはじめ支部の運営をしていきたいと思います。

土木学会や技術交流会等で関西に来られる機会があれば、事前に連絡していただければと思います。また転勤等で、関西に来られましたら気軽に連絡ください。

皆さんで、関西弁と鹿児島弁のゴチャ混ぜ交流会を開催しましょう!!

年末の忘年会、多数の参加を期待しております（幹事一同）。

「福岡支部 近況報告」

福岡支部長 梁木 英寿

わが支部は現在、約120名で、活動としては年1回年末に懇親会を行っています。上が50歳台中番から下は卒業したての20歳台と、だんだん幅広くなっております。各年代毎に幹事役をお願いして、そこから声をかけるシステムとしております。メンバーは、コンサルタント、マリコン、官公庁、ゼネコンと多様で、日ごろの付き合いのある業種ごとに話が仕事に及ぶこともあるようです。支部として独自の活動をやっているわけではありませんが、鹿児島大学海洋土木の同窓生の窓口として、若手の職員のよりどころや情報交換の場として、活用してもらうことを目的としております。年1回の懇親会ですが、会社の先輩後輩、



写真1 福岡支部の模様 ～その1～



写真2 福岡支部の模様 ～その2～

上司部下もこのときは同窓生として入り乱れて飲みます。また就職先による立場は違いますが、研究室が同じだとまた先生の話に花が咲きます。同じカリキュラムを経た同士であり、建物や部室、グランド・実験室を共有したもの同士の連帯感がそこに生まれます。利害を超えたつながりがその同窓生にあることが、特徴ではないでしょうか。

九州で2番目に大きな組織としての福岡支部は、就職先、移動先においても重要な地域であり、多くの同窓生を受け入れ、今後も地域における海洋土木の交流の窓口としての機能を果たして行きたいと思っております。就職、移動の際近郊に来られたときは、連絡を待っております。

「学生会員 近況報告」

ここでは、学生会員の近況を少し紹介させて頂きます。まず、学生会員の各研究発表会での活躍を紹介いたします。第42回地盤工学研究発表会では荒木功平君が優秀論文発表者賞を、平成19年度土木学会西部支部研究発表会では八坂渚さんが優秀講演賞を受賞しております。土木学会全国大会においては、第61回年次学術講演会で佐藤裕考君が、第62回年次学術講演会では久保直哉君、中崎豪士君がそれぞれ優秀講演賞を受賞しております。

また、平成19年に行われた工学部体育祭では、当時2年生のチーム「海坊主」（代表：黒瀬亮太君）が見事優勝しました。この大会は、昭和36年からの歴史があり、この歴史上、海洋土木工学科単独チームとしては初の快挙です！海坊主の皆さん、優勝おめでとう！！



写真3 海坊主優勝 ～その1～



写真4 海坊主優勝 ～その2～

退職記念事業報告

海洋土木工学科（当時：海洋土木開発工学科）の創成期を支え、その後の発展に多大なるご貢献をいただいた櫻井仁人先生、佐藤道郎先生がご定年退職されました。長年のご功績とご貢献、これからのご活躍とご健康を祈念し開催された退職記念事業を紹介致します。

櫻井仁人先生 退職記念事業紹介（櫻井先生のご退職報告と今）

准教授 山城 徹

櫻井仁人先生は、平成19年3月末日付をもちまして鹿児島大学をご定年退職されました。先生は昭和50年4月に東京大学海洋研究所から鹿児島大学工学部海洋土木開発工学科（現在の海洋土木工学科）に助手として奉職され、その後、昭和56年6月に講師、平成12年4月に助教授に昇任されました。ご定年を迎えるまでの32年間、海洋学総論や海洋物理環境学、気象学総論、海技演習、大気海洋環境特論などの講義を教授され、幾多の人材を育成されました。

この長年の先生のご功績とご貢献に対して、海洋土木工学科卒業生（主に海洋工学基礎講座出身）と大学関係者の方々にご協力を頂いて、平成19年5月19日にステーションホテル ニューカゴシマにおいて退職記念事業として記念講演会と記念祝賀会を開催いたしました（写真5）。記念講演会では、櫻井先生に『地球環境と人』という演題で、地球環境の実際を講演して頂きました。記念祝賀会には東京から沖縄まで各地から卒業生に参加頂きまして、72名の参加者で櫻井先生を囲んで、賑やかで、とても楽しい祝賀会でした。

月日の経つのは早く、ご退職されてから2年になろうとしています。櫻井先生は現在、非常勤講師として工学部、水産学部で気象学の講義を教授されています。一方、多彩な趣味を持たれ、俳句、短歌、写真、ウクレレ、山登りなどの講座に通い、あちこち飛び跳ねる毎日を楽しんでおられます。写真はご退職記念事業のときにご贈呈しましたデジタル一眼レフカメラ「ニコンD80」を使って頂いています。

最後に、櫻井先生の句をひとつ。先生らしさの滲み出た作品です。

「香を移し去り行くひとの春日傘」 さくらみ

櫻井先生から、皆さんによろしくお伝え下さいとのことです。

佐藤道郎先生 退職記念事業紹介

教授 浅野 敏之

佐藤道郎先生は、1974年10月に設立間もない海洋土木工学科（当時は海洋土木開発工学科）に着任されて以来、33年6ヶ月にわたって本学科の創成と発展に貢献されました。今年3月の先生のご退職にあたり、長年の先生のご功績とご貢献に対して心より敬意と謝意を表わすとともに、これからのご活躍とご健康を祈念いたし、有志が相計りまして記念事業を計画いたしました。

佐藤先生の最終講義は、平成20年3月24日15時から海洋土木工学科2階自習室（旧63号教室）にて行われました。学生・教職員をはじめ外部からの来訪者約60名が集まる中、「海洋土木工学科と私」と題して講演されました。引き続き17時から同室で佐藤先生を囲んで小宴を開催致しました。同年5月17日にはレンインボーサン島に於いて、記念講演会と記念祝賀会を開催致しました。当日は晴天に恵まれ、会場からは春のうららかな錦江湾を望むことができ、佐藤先生の研究室の卒業生を中心に、先生のご友人、学科関係者など89名の方々の出席を頂き、にぎやかな祝賀会を行うことができました。また138名の方々から寄せられた退職記念事業釀金から、先生に記念品として旅行券を謹呈致しました。

佐藤先生は一時体調を崩されておられましたが、現在はご健康を回復されておられます。佐藤先生の祝賀会は、この日の天候のように明るく慶賀に富むものでした。このような記念事業を執り行うことができたのは、卒業生の皆様方のご理解・ご協力の賜物であり厚く御礼申し上げます。

新任教員紹介

平成19年9月に柿沼太郎先生が准教授として就任されました。自己紹介をお願いいたしますので、ご報告いたします。

准教授 柿沼 太郎

2007年9月赴任。しかし、その9月1日、私は、薩摩の地にいなかった。この日、羽田から、長崎に着いた。「平成19年度九州・山口地区海岸工学者の集い」に参加するためであった。そして、佐藤道郎名誉教授並びに浅野敏之教授と、10畳間程であったろうか、旅館に同室させていただいた。緊張の、しかし、楽しい夜であった。同室の海岸工学研究グループの大学院生は、初対面であったが、皆さんと、なんと穏やかな楽しい夜を過ごせたことだろう。相手を思い遣る素晴らしい隼人気質の一部に、長崎の地で触れたのであった。翌日の帰路、と言っても、私にとっては、鹿児島に行く道のりであるが、佐藤先生に、講義のこと、実験のこと、現地観測のこと、様々なお話を伺った。お話は、車窓を流れる緑深き九州の森々と溶け合った。2007年9月3日（月）の赴任から現在まで、浅野先生には、教員の一から教えていただいている。日本で唯一の海洋土木工学科の先生方は、温かい。学生からも、既にたくさんのことを行なった。中央駅前の青年群像。島津藩は、若者に日

本の夢を託した。留学を組織としてやってのけた。学生は、一人一人が特性を有している。それが個性として輝くに至っていなくとも、確かに特有の性質を持っている。その一つ一つを発見したい。手を貸してあげたい。特性毎の相互干渉。人ととの相互干渉。その反応は、互いの個を変化させ、組織を変化させる。ある夜中、北辰通りを歩いた。ふと見上げると、パームが伸び、空に伸びて、星々を指していた。この光景を忘れたことがない。流星落ちて住むこの空間。何卒宜しくお願ひ致します。

○ご意見等ございましたら下記までお寄せください。

鹿児島大学工学部海洋土木工学科同窓会（しらなみ会） 学内編集幹事 木村 至伸
(E-mail:y-kimura@oce.kagoshima-u.ac.jp)

南 翔 会

南翔会会长 渡 光次郎

同窓会会員の皆様、お元気でご活躍のことと存じます。

まず初めに、皆さんご存知の通り、工学部改組により21年度から生体工学科は情報生体システム工学科、化学生命工学科という新学科に吸収されることになります。他学科においても、改組により変化することになります。南翔会の今後の活動に関しては近々総会を開き皆さんにもご相談していきたいと考えています。

現在、社会の変化のスピードは激しく、資材高騰、雇用減少など我々の生活に直結した問題が深刻化しており、不安を抱えていらっしゃる方も多いのではないでしょうか。

そのような中、私が仕事をしながら感じていることは、基礎の大切さです。特に大学時代に勉強した学問は非常に役に立ち、重要であることに気付かされます。企業では長い経験や実績に頼り、学問的な裏付けがないまま仕事をしている場合が多々あります。品質第一の昨今、それでは本当に良いものは作れなくなっています。基礎を疎かにしていたツケが来ていると言っても過言ではありません。また、基礎がしっかりとしている人は仕事でもミスが少なく、問題点にすぐ気付くことが出来ます。学生の皆さんにはまだ時間もあります。研究に勤しむと同時に、講義で学んで来た内容を今一度振り返って理解を深めていただきたいと思います。

生体工学科という名前はなくなりますが、私や皆さんのが鹿児島大学工学部の同窓生ということは変わりません。今後も多方面においてフォローし合い親交を深めていけたらと思います。皆さんのご健康といっそうのご発展を祈念致します。

庶務幹事 橋口 周平

生体工学科の同窓会として「南翔会」が発足し5年。これまでにない試みとして平成20年度は南翔会主催のイベントとして、生体工学科に入学したばかりの新入生と学科教職員との交流会を開催いたしました。お互いの距離を縮めるよい機会となりました。一方で、卒業生同士の交流の場を提供できないでおりますが、何らかの形で交流できる機会を設けたいと考えております。今後の南翔会の活動を進めるため、また、南翔会の在りかたを考えるために皆さん之力をお借りする必要があります。ご協力をお願いいたします。

編集幹事 中島 常憲

南翔会の会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年より編集幹事をつとめております中島でございます。19年度には会報を発行しなかったため、2年ぶりの部会便りとなります。昨年度は南翔会発足後初めて同窓会名簿が発行され

ました。若い部会と思っていた南翔会も約400名の会員数となっています。上記で渡会長もふれておりますが、平成21年度に行われる工学部改組では生体工学科も再編され新学科に組み込まれます。南翔会の今後のあり方について、できるだけ多くの会員の皆様からご意見をうかがいたいと思っております。総会が開催されましたら、是非出席して頂きたいと思います。

平成19、20年度において南翔会としての大きな活動はございませんでしたので、在校生の活動を中心に生体工学科として行われた行事を、この紙面をお借りしてご報告申し上げます。

平成19年では、11月に生体工学科が中心となり「遺伝子工学・機能性材料・環境化学の現在と展望」と題して工学部公開講座を開催いたしました。生体機能材料コースより、伊東准教授、板原教授、大木教授の3名が講義をされ、学内外より多数の聴講者が集まりました。講義の後、各研究室が一般の方や中・高校生を対象にデモ実験を行いました。



平成19年度工学部公開の様子



平成19年度 生体工学科 卒業式

また、20年3月の卒業式の後には、毎年恒例となっております卒業生・修了生主催による謝恩会が行われました。平成19年度で退官された広岡教授をはじめとする教職員一同へ、卒業生からの感謝の気持ちが伝わるすばらしい会となりました。



平成19年度 生体工学科 謝恩会の様子

また、平成20年3月31日付で、鈴木助教が理化学研究所へ転出されました。後任として、岡村助教が、平成20年11月1日より着任されました。自己紹介をお願いいたしましたので、ご報告いたします。

新任教員紹介

岡村 純也（おかむら じゅんや）

自己紹介

2008年11月から生体工学科の助教に着任しました岡村です。鹿児島で生まれ育ち、福岡の九州大学で学びました。生まれ育った地である鹿児島に再び住み、教育、研究活動ができる事を嬉しく思います。皆様どうぞよろしくお願ひ致します。

研究内容

私は動物の視覚に注目し、脳の機能システムを神経ネットワークのレベルで明らかにすることを目的として研究しています。具体的には、動物の行動を観察し、行動を制御する脳の活動を記録します。さらに、脳の構造と神経細胞の形態を解剖学的に調べ、行動を制御する脳の機能を神経ネットワークのレベルで明らかにします。

動物の脳には似たような特徴に応じる神経が集まり、カラムを構成しています。私は、物体までの距離に応じる神経の活動を昆虫の脳において世界で初めて記録し、色素を注入

して神経細胞の形態を同定しました。その後、昆虫の脳において、物体の形の認識に関する神経細胞を新規に同定しました。これらの経験を活かし、今後は脊椎動物の脳の機能を視覚に注目して調べていきます。心理物理学的方法等を用いて動物の行動を調べる実験、脳の神経細胞の電気活動を記録、解析する生理学的実験、神経細胞の形態と脳の構造を調べる解剖学的実験を併用し、ひとつのシステムとしての脳機能を神経ネットワークのレベルで明らかにしたいと思います。

教育方針

教育に関して、私は学生の自主性を重んじたいと思います。ある程度の道筋は教員が示しますが、自分で考え、周りの人と話し合って問題点を明らかにし、問題を解決する能力を養っていただきたいと思います。問題を解決するためには色々な方法を駆使する必要があるかと思いますが、あまり多くのことを考え過ぎず、焦点を絞って一つ一つ明らかにしていくべきだと思います。

理科系の自然科学、応用科学の研究分野に共通する大切なこととして、現象を良く観察することが挙げられます。ある目的を持ち、予測を立てて研究を進めるのですが、予想外の結果が得られることがあります。その場合はなぜ予想外の結果が得られたのかよく観察して考え、反省すべき点は反省して次の研究に結びつけなければ良いと思います。一方、予想外の結果から研究が進展する例が多く見られます。世間で重要と言われる発見のうち、予想外の実験結果、観察結果から生まれたものが少なからずあります。予想外の結果には特に注目して良く観察し、深く考える力を学生には養っていただきたいと思います。

人にとってより使いやすく、より良い工業製品を開発するためには、人や動物の機能を詳しく調べ、正しく理解する必要があります。これまで生物学を専門に学び、研究してきた私が、動物の身体に関する正しい知識を工学部の学生に教え、より良い工業製品を開発するための素地になれば良いと思います。

略歴

- | | |
|-----------|---|
| 1995-1999 | 九州大学・理学部・生物学科 |
| 1999-2001 | 九州大学大学院・理学研究科・生物科学専攻・修士課程 |
| 2001-2004 | 九州大学大学院・理学府・生物科学専攻・博士後期課程
日本学術振興会特別研究員（DC-1） |
| 2004-2006 | 米アリゾナ大学・神経生物学部・リサーチアソシエイト |
| 2006-2008 | 総合研究大学院大学・葉山高等研究センター・上級研究員 |
| 2008- | 現職 |

鹿児島大学稻盛賞

(平成19年度および平成20年度)

鹿児島大学稻盛賞は、平成15年度から、次の選考基準により各学部から選ばれた2名の方々に与えられるものです。但し、(1)の対象者は学部学生（4年生）に限り、(2)、(3)の対象者には大学院生を含みます。

- (1) 学業に専念し成績優秀で品行方正な最終年次学生
- (2) 繙続的な活動により社会の期待にこたえるような業績を挙げた学生
- (3) その他前2号と同等以上の表彰に価する行為があったと認められた学生

平成19年度

[情報工学科] 前野 克洋

[生体工学科] 朝田 俊秀

平成20年度

[機械工学科] 徳田 貴志

[建築工学科] 花原 裕美子

鹿児島大学工学部稻盛学生賞

(平成19年度および平成20年度)

鹿児島大学工学部稻盛学生賞は、昭和44年11月、当時京セラ株式会社社長の稻盛和夫氏の寄付により創設された鹿児島大学工学部稻盛奨学生制度を、平成14年度から本制度に改めたものです。この賞は工学部の4年次の学生の中から、成績優秀で、かつ、後輩に対し模範となるような学生生活を送っている方々に与えられるものです。

平成19年度

[機械工学科] 高本 健太、中野 裕己

[電気電子工学科] 岩崎 育美、古別府 正

[建築学科] 大丸 愛、窪田 真樹

[応用化学工学科] 新原さゆり、俣木 祐子

[海洋土木工学科] 内園 憲仁、木村 友則

[情報工学科] 外山 勝崇、早川 健志

[生体工学科] 朝田 俊秀、吉田 匠吾

平成20年度

- [機械工学科] 嘉村 勇毅、原田絵梨香
- [電気電子工学科] 福宿 純一、ノールザイニ ビンティ エム
- [建築学科] 丸林 美香、和田 大典
- [応用化学工学科] 井野圭志朗、山下 和弥
- [海洋土木工学科] 阿部宗大郎、松元千加子
- [情報工学科] 岡 信太郎、田中 芳貴
- [生体工学科] 坂口 由華、徳満みづえ

学部長賞・成績優秀賞

(平成18年度後期～平成20年度前期)

学部長賞および成績優秀賞は平成15年度から、各学期における学業成績優秀者に対して与えられるものです。

平成18年度後期学部長表彰者

- [機械工学科] (3年) 粟津雄行、(2年) 上瀧口卓也、(1年) 池田大樹、黒田佳乃子、長屋敬介、東 晃広、八田陽介
- [電気電子工学科] (2年) 福宿純一、(1年) 桐原裕紀、魏 一、吉原和樹
- [建築学科] (2年) 野崎 尊、花原裕美子、和田大典、(1年) 岩崎まり恵、比良朋香
- [応用化学工学科] (3年) 俣木祐子、宮内翔平、(2年) 松窪秀樹、宮崎将尊、山下和弥、(1年) 麻生 慎、玉城圭悟、鶴田将真
- [海洋土木工学科] (3年) 内園憲仁、木村友則、(2年) 豊田真司、阿部宗大郎、佐藤佑磨、田原大地、松元千加子、宮本雄樹、山下健作、(1年) 久米村秀明
- [情報工学科] (3年) 下川幸男、福永貴大、(2年) 中島章博、(1年) 桑原孝子、末野智也、原田和幸、山田壽樹
- [生体工学科] (3年) 吉田匠吾、(2年) 假屋裕貴、徳満みづえ、(1年) 東山佑理、森薗孝介

平成18年度後期成績優秀賞

- [機械工学科] (3年) 勘場裕司、西村祥一、福留拓朗、山田淳也、(2年) 嘉村勇毅、徳田貴志、永家慎一、(1年) 青柳陽彦、安部雅之、江頭幸司、小嶋良昌、河野直喜、

小蘭孝尚、永井雅人、松迫洋憲

[電気電子工学科] (3年) 松本誉己、(2年) 羽生大仁、(1年) 的場康之、建野峰彦、福岡正崇、福山一成、森山 卓

[建築学科] (3年) 谷川正明、山口慎一郎、長嶋隆一、(2年) 市村良平、小野結香、田中翔子、丸林美香、(1年) 王子田千明、武矢直子、中尾悟郎、古家靖士、右田正信、八汐洋平

[応用化学工学科] (3年) 下堀陽佑、毛利雅裕美、山口亮平、(1年) 梅尾清志郎、小藤菜緒、下村直之、砂田真希

[海洋土木工学科] (3年) 井上朋也、森藤秀祐、(2年) 石橋和典、市来佐和子、市山仁、大石 静、木村彰吾、茶屋彰仁、豊福大志、宮原 晃、山口裕之、(1年) 植村潤一、上大迫智哉、國生大樹、南 秀策、森尾圭介

[情報工学科] (3年) 片平圭一、龍野寛樹、外山勝崇、吉永恒平、(2年) 鈴木亮祐、田原迫麗、(1年) 阿野陽一、片山恵一、渦山一樹、高手一徳、高山風見也、中川原豪

[生体工学科] (3年) 朝田俊秀、山口憂三、(1年) 安部梨沙、上堀内健二、田渕光太郎、徳田啓一、濱崎智帆、福田 薫、吉岡冬美

平成19年度前期学部長表彰者

[機械工学科] (3年) 嘉村勇毅、徳田貴志、富永航大、加茂陵賀、新郷拓也、(2年) 林 光介、安部雅之、東 晃広、山口洋和

[電気電子工学科] (3年) 福宿純一、(2年) 宮野宏斗、魏 一、清水崇行、片野坂圭祐、桐原裕紀

[建築学科] (3年) 田中翔子、木口屋由紀、花原裕美子、和田大典、丸林美香、宮崎稔也、松延良枝、(2年) 中尾悟郎

[応用化学工学科] (3年) 川村麻美、井野圭志朗、岡留有希美、松窪秀樹、角島菜見子、篠藤慶二、上水樽孝祐、内村英斗、(2年) 鶴田将真、梅尾清志郎、東 達弥、(1年) 野村晋太郎、今古川博恵、松村彰洋、志波貴臣

[海洋土木工学科] (2年) Hong Jin-Wuk、久米村秀明、前田恭兵、(1年) 吉田祐基、平石恭子、森満誠也

[情報工学科] (3年) 中島章博、鈴木澄玲、梅谷 綾、岡信太郎、田中芳貴、窪田香奈、小池寿和、篠原耕成、十島 航、安田知未

[生体工学科] (3年) 坂口由華、徳満みづえ、假屋裕貴、宮原つかさ、金尾弥生、(2年) 安部梨沙、濱崎智帆、森蘭孝介、(1年) 江崎龍洋、大岩孝輔

平成19年前期成績優秀賞

[機械工学科] (3年) 真田貴弘、大浦晋一郎、日高 望、川口洋平、加賀田冴佳、大田晃久、比江嶋信助、上瀧口卓也、(2年) 中村晃浩、八田陽介、前田季輝、青柳陽彦、

河野直喜、(1年)森重祐介、柳田祐樹、脇山 淳、川野林斗

[電気電子工学科] (3年) 松島健介、入佐浩亮、羽生大仁、(2年) 吉原和樹、森山卓

[建築学科] (3年) 松添愛子、野崎 尊、原田康生、市村良平、木原杏子、中嶋彩也香、(2年) 西園 誠、岩崎まり恵、武矢直子、浜岡和史、右田正信 (1年) 前田雄太郎、由村未来、木村直樹

[応用化学工学科] (3年) 下堀隆佑、久保知紗子、(2年) 川原裕司、上本清加、麻生慎、小野敬子、名田敬太、玉城圭悟、梅ヶ谷勇太、飯隈洋一、田代祐也、(1年) 白坂初希、河合祐樹、豊留寿也、追田 茜、飛永恭兵

[海洋土木工学科] (2年) 國生大樹、(1年) 中園大介、片岡美里、松田 徹、久保信二

[情報工学科] (3年) 愛甲大将、上原 航、大岩律子、谷川岳史、春本仁志、前田浩志、田原迫麗、久野宏平、宮本龍二、(2年) 渡辺誠彌、(1年) 松尾真也、坂本竜次、畠中直人、黒木靖友

[生体工学科] (3年) 正田真代、上田由佳梨、宇都宮美香、杉田良平、徳田裕卓、美奈川徹、(2年) 鶴田崇起、甲斐聰美、東山佑理、堂地祐加、塙本翔悟、杜若祐平、(1年) 桐原明子、江口晴香、中川 獨

平成19年度後期学部長表彰者

[機械工学科] (3年) 徳田貴志、富永航大、(2年) 林 光介、東 晃広、(1年) 取違庸輔

[電気電子工学科] (2年) 桐原裕紀、魏 一、宮野宏斗、(1年) 向井実樹成、孔 繁旭、吉村卓哉

[建築学科] (3年) 和田大典、花原裕美子、丸林美香、(2年) 川元悠太朗、(1年) 由村未来

[応用化学工学科] (3年) 山下和弥、岡留有希美、井野圭志朗、川村麻美、内村英斗、賀屋雅裕、久留須太郎、(2年) 鶴田将真、小藤菜緒、梅尾清志郎、玉城圭悟、名田敬太、松元優明、飯隈洋一、(1年) 今古川博恵、太田智也、飛永恭兵、鶴村勇貴、志波貴臣

[海洋土木工学科] (2年) 久米村秀明、(1年) 吉田祐基、森満誠也

[情報工学科] (3年) 津々見誠、金田侑士、岡信太郎、田中芳貴、谷川岳史、十島 航、福元 俊、宮城佳奈子、于 特、(1年) 松尾真也、坂本竜次、澤井陽輔、春田章藏

[生体工学科] (3年) 坂口由華、宮原つかさ、假屋裕貴、藤崎理美、(2年) 塙本翔悟、森薦孝介、(1年) 江口晴香、大岩孝輔、上園友哉、江崎龍洋、織田拓真

平成19年後期成績優秀賞

- [機械工学科] (3年) 日高 望、川内裕允、折田駿介、(2年) 前田季輝、安部雅之、中村晃浩、八田陽介、(1年) 尾堂裕之、林田幸大、前田克也、江口直希、大渡龍之介、川井田優輝、川野林斗、中里修一、松尾圭祐、島崎信吾、柳田祐樹
- [電気電子工学科] (3年) 福宿純一、(2年) 井上真希、(1年) 日野賀臣、森永記史、池田敬祐、大村龍弘、野中勝也、鈴木一真、伊藤一成
- [建築学科] (3年) 中嶋彩也香、市村良平、松延良枝、木口屋由紀、(2年) 金子恭子、西園 誠、古家靖士、中尾悟郎、大石康平、(1年) 永田洸大、大河内恵美
- [応用化学工学科] (3年) 上水樽孝祐、下堀隆佑、松窪秀樹、中嶋紳悟、(2年) 川原裕司、麻生 慎、椎原正実、馬崎和樹、西村裕悟、(1年) 松村彰洋、岩田大樹、谷下洋平、追田 茜、豊留寿也、菅 雄太、野村晋太郎、大木悟志、鯨島樹興
- [海洋土木工学科] (2年) 前田恭兵、Hong Jin-Wuk、日渡祐太、吉元太朗、植村潤一、川上弘次、福原徳一郎、坂元貴之、萩平裕樹、(1年) 小田川隼祐、杉山彰啓、中園大介
- [情報工学科] (3年) 梅谷 綾、宮田朋幸、谷口慎治、竹迫正嗣、山崎 望、押川修士、中島寛之、(2年) 谷山大介、(1年) 堤田沙由里、中島信太郎、日高兼吾、福迫徳人、大西哲平
- [生体工学科] (3年) 田中小代里、谷村優一、(1年) 柳田聖香、桐原明子、吉村和正、片山 俊、鎌倉悟史、川端俊一、星崎祐哉、山口玲欧奈、池田直人、園田 悠、宮内慶太

平成20年度前期学部長表彰者

- [機械工学科] (3年) 安部雅之、有村栄次郎、中村晃浩、林 光介、東 晃広、前田季輝、森永祐紀、八田陽介、(2年) 取違庸輔、中里修一、福元大地、前田克也、松尾圭祐、森重祐介
- [電気電子工学科] (3年) 井上真希、勝目彬人、桐原裕紀、魏 一、永峯知明、宮野宏斗、吉原和樹、吉原直樹、川畑雅寛、(2年) 向井実樹成、森部裕章、吉村卓哉、孔繁旭、(1年) 下蘭 太
- [建築学科] (3年) 笹岡祐太、川元悠太朗、西園 誠、(2年) 由村未来
- [応用化学工学科] (3年) 梅尾清志郎、小藤菜緒、玉城圭悟、(2年) 太田智也、志波貴臣、日置千代美、(1年) 高宮真梨子、堂前康介
- [海洋土木工学科] (3年) 前田恭兵、(2年) 森満誠也、吉田祐基、(1年) 宇都航志郎
- [情報工学科] (3年) 濱崎一樹、内村一哉、潟山一樹、中川原豪、渡邊誠彌、(2年) 坂本竜次、(1年) 坂口裕一、佐多恵悟、松林正晃
- [生体工学科] (3年) 安部梨沙、塚本翔悟、東山佑理、水元美佐、森薗孝介、(2年) 江口晴香、江崎龍洋、大岩孝輔、川端俊一、黒田 唯

平成20年前期成績優秀賞

[機械工学科]（3年）村田翔一、林 正和、本田裕一、松迫洋憲、山口洋和、（2年）出野貴士、大迫寛尚、中村龍之介、川井田優輝、西園翔悟、益山翔太、柳田祐樹、山下勇人、（1年）岩永東祐、上久木田護、豊岡誠也、仲西洋介、矢野喬寛

[電気電子工学科]（3年）和泉竹衛、片野坂圭祐、的場康之、福山一成、安丸修平、（2年）川路和利、日野賀臣、（1年）島木隆行

[建築学科]（3年）山下大介、岩崎まり恵、金子恭子、清水郁子、武矢直子、寺田理恵、比良朋香、古家靖士、右田正信、森藤秀太、若松俊輝、（2年）木村直樹、永田洸大、（1年）池畠泰志、岩田奈々、古賀菜津美、小山賢太郎、佐々木要、谷本亜耶子、長瀬優、古達知佳

[応用化学工学科]（3年）井上和也、金丸愛美、高橋良尚、鶴田将真、名田敬太、馬崎和樹、（2年）今古川博恵、岩田大樹、谷下洋平、豊留寿也、（1年）桑木貴之

[海洋土木工学科]（3年）鶴木健太、Hong Jin-Wuk、（2年）小田川隼祐、（1年）大庭嵩史、岸良美香、坂井良輔、田畠勝幸、田村準樹、福宿良孝、藤田 薫、森山 陽

[情報工学科]（3年）中島恵太、宮路駿一、阿野陽一、齊藤真悟、高手一徳、高山風見也、山田壽樹、（2年）澤井陽輔、堤田沙由里、松尾真也、（1年）上田知幸、尾脇拓朗、川上雄大、崎元健公、吉村治将

[生体工学科]（3年）徳田啓一、堂地祐加、濱崎智帆、（2年）佐藤綾香、（1年）永田野々香、松波孝太

平成21年3月修了及び卒業生進路

機 械 工 学 科

スズキ(株)
 トヨタ自動車九州(株) (2名)
 アイシン精機(株)
 トヨタ車体(株)
 スカイネットアジア航空(株)
 川崎重工業(株)
 ヤマハモータエンジニアリング(株)
 本田技研工業(株)
 (株)オータ
 ダイハツ工業(株)
 (株)ソフト流通センター
 (株)エフ・シー・シー
 (株)大林組
 九州電子(株)
 (株)日本製鋼所
 NECセミコンダクターズ九州・山口(株)
 (株)鹿児島銀行
 (株)IHI
 神鋼建材工業(株)
 大分キャノン(株)
 KTS鹿児島テレビ放送(株)
 トヨタテクニカルディベロップメント(株)
 (株)トヨタプロダクション・エンジニアリング
 パナソニック半導体オプトデバイス(株)
 三菱自動車工業(株)
 マレーシア国際造船(株)
 シャープ(株)
 新キャタピラーミツubishi(株)
 NOK(株)
 河西工業(株)
 (株)ケーピン
 自営(自動車販売・修理)
 大阪大学大学院 (1名)
 九州大学大学院 (2名)
 鹿児島大学大学院 (51名)

ヤンマー(株)
 ダイハツ工業(株)
 三菱重工業(株) (4名)
 (株)リコー
 トヨタ自動車九州(株) (5名)
 宇部興産(株)
 日産自動車(株)
 日本電産(株)
 (株)モルテン
 スズキ(株) (3名)
 ジェイ・バス(株)
 富士機械(株)
 (株)牧野フライス製作所
 日本特殊陶業(株)
 トーカロ(株)
 (株)IHI (2名)
 ヤマハ発動機(株)
 ダイハツ工業(株)
 パナソニックコミュニケーションズ(株)
 本田技研工業(株)
 川崎重工業(株)
 京セラ(株)
 新明和工業(株)
 (株)森精機製作所
 三菱自動車工業(株)
 (株)不二製作所
 アイシン精機(株)
 富士重工業(株)
 エアーニッポン
 ダイハツ九州(株)
 マツダ(株)
 パナソニック(株)
 キヤノン(株)
 松下環境空調エンジニアリング(株)
 (株)INAX
 日本ストライカー(株)
 ソニーセミコンダクタ九州(株)

機 械 工 学 専 攻

濱田重工業(株)
 九州電子(株)

電 気 電 子 工 学 科

京セラ(株)
 (株)ジュピターテレコム

日本エアコミューター(株)
九州電力(株)
(株)九電工
トヨタ自動車九州(株)
ソニーセミコンダクタ九州(株)
九州労働金庫
ペトロナス社(2名)
京セラコミュニケーションシステム(株)
鹿児島市役所
(株)きんでん
トヨタテクニカルディベロップメント(株)
(株)リクルートスタッフィング
Proton
大分キヤノン(株)
大和冷機工業(株)
(株)コア九州カンパニー
古河電気工業(株)
ダイハツ九州(株)
ホシデン(株)
大王製紙(株)
(株)トヨタ車体研究所
宇部興産機械(株)
(株)ダイヘン
スズキ(株)
(株)電算システム
鹿児島大学大学院(44名)

ファナック(株)
キヤノン(株)
東京電力(株)
日本電気(株)
鉄道・運輸機構
九州旅客鉄道(株)
パナソニック(株)
本田技研工業(株)
パナソニックエコシステムズ(株)
(株)日立製作所

建築学科

大和リース
佐藤工業
(株)フジタ
警視庁
井口インターナショナル
(株)大林組
大井建工(株)
(株)戸田建設
九電工
(株)仲本工業
山根木材(株)
鹿児島市役所
サンゲツ
サンヨーハウス(株)
大和ハウス工業(株)
三共ディスプレイ(株)
清水建設(株)
(株)大林組
谷川建設(株)
青木あすなろ建設(株)
アイ・ケイ・ケイ(株)
積水ハウス(株)
国立大学法人
西松建設(株)
(株)奥村組
(株)竹中工務店

電気電子工学専攻

パナソニックコミュニケーションズ(株)
三菱電機(株)(3名)
九州電力(株)(6名)
東海旅客鉄道(株)
富士通(株)
富士電機(2名)
関西テレビ放送(株)
ヤマハ発動機(株)
ソニー(株)(3名)
(株)安川電機
九州管区警察局
三洋電機(株)
(株)東芝(3名)
川崎重工業(株)
三菱重工業(株)
横河電機(株)
シャープ(株)(2名)

建築専攻

(株)杉孝
鹿児島銀行
(株)スペース
(株)INA 新建築研究所

アルモ設計
内藤建築事務所
大和ハウス工業(株)
YKKap
大建設設計(株)
清水建設(構造設計部)
安藤建設(株)
大和ハウス工業(株)
交建設
(株)佐藤総合計画
類設計室
(株)竹中工務店
(株)千代田テクノエース

応用化学工学科

アルバックマテリアル(株)
(株)アルプス技研
(株)INSPIRIT
(株)エイチ・アイ・エス
エスピー食品(株)
九州ノゲデン(株)
翔薬(株)
住友電工ファインポリマー(株)
(株)スリーエイ・システム
(株)ダリヤ
チッソ(株)
千代田工商(株)
豊前東芝エレクトロニクス(株)
中菱エンジニアリング(株)
(株)西原商会
ニショリ(株)
日鉄環境エンジニアリング(株)
浜田酒造(株)
(株)日立システム九州
(株)日立ハイテクフィールディング
(株)富士通九州システムエンジニアリング
(株)山野井
YKK AP(株)
徳島大学大学院
九州大学大学院（5名）
鹿児島大学大学院（51名）

応用化学工学専攻

京セラ(株)
ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
新興プランテック(株)
新日本空調(株)
ソニーセミコンダクタ九州(株)
東京エレクトロン九州(株)
(株)トクヤマ
トヨタテクニカルディベロップメント(株)
日本化薬(株)
日本牛乳野菜(株)
パブコック日立(株)
三井造船(株)
三菱化学エンジニアリング(株)(2名)
三菱東京UFJ銀行
(独)理化学研究所
リンナイ(株)
公務員専門学校

海洋土木工学科

大島造船所
南国殖産
千代田コンサルタント
積水ハイム
穴吹工務店（2名）
不動テトラ
JFE シビル（2名）
佐世保重工業(株)
ヤマハ発動機
東亜建設工業
三井住友建設
名村造船所
前田建設工業
(株)平成建設
戸田建設
JR 西日本
トヨタコミュニケーションシステム
飛島建設
(株)フジタ
リコーソフトウェア
九鉄工業
DELL
電盛社
国土開発

JR 九州
JR 西日本
三晃金属工業
富士通鹿児島インフォネット
日本情報産業
五洋建設
イーライフ共和
熊本市役所
鹿児島県警
南日本銀行
鹿児島銀行
鹿児島大学大学院（18名）

情 報 工 学 専 攻

富士通エフ・アイ・ピー九州(株)（2名）
(株)NTT ドコモ九州
新日鉄ソリューションズ(株)
デンソー・テクノ(株)
(株)NEC 情報システムズ
東芝ソリューション(株)（3名）
NEC(株)
横河電機(株)
日本電営(株)
(株)東芝
(株)ニッセイコム
NTT コムウェア(株)
東京計装(株)
(株)富士通鹿児島インフォネット
九州通信ネットワーク(株)（2名）
Yahoo!Japan(株)
日本システムウェア(株)
NEC ソフトウェア九州(株)
セントラルソフト(株)
ラックホールディングス(株)
東芝情報システム(株)
東芝インフォメーションシステムズ(株)
九電ビジネスソリューションズ(株)

海 洋 土 木 工 学 専 攻

日本工営(株)（2名）
(株)インフラテック
コーツ工業(株)
川崎地質(株)
太平セメント
東芝プラントシステム
間組
ヒエン電工
トヨタテクニカルディベロップメント株式会社(TTDC)（2名）
鹿児島銀行
鹿児島市役所

生 体 工 学 科

<生体機能材料>
(株)鹿児島銀行
(株)新日本科学（2名）
(株)肥後銀行（2名）
(株)熊防メタル
(株)前川製作所
九州旅客鉄道(株)
不二ライトメタル(株)
日本食研(株)（2名）
京セラ(株)
シスマックス CAN(株)
東和薬品(株)
岩崎産業(株)
関西熱化学(株)
すかいらーくグループ
(財)化学及血清療法研究所（2名）
鹿児島大学大学院理工学研究科（20名）
九州大学大学院

情 報 工 学 科

トヨタテクニカルディベロップメント(株)
リコーソフトウェア(株)（2名）
(株)鹿児島銀行（3名）
NTT 西日本(株)（2名）
NTT ソフトウェア(株)
南国システムサービス(株)
(株)マイピク
テクノスクエア(株)
エイムネクスト(株)
NTT アドバンステクノロジー(株)
(株)RKK コンピュータサービス
(株)ソフト流通センター
ソフトマックス(株)
(株)日本システムデザイン
(株)イノス
鹿児島大学大学院（25名）

<生体電子工学>

セントラルソフト(株)
IDOM コーポレーション(株)
富士ソフト(株)
三菱電機(株)（2名）
安川情報システム(株)
三菱インフォメーションシステムズ(株)
日本光電工業(株)
日本メディカルマテリアル(株)
シャープ(株)
富士フィルムソフト(株)
オムロンリーダーアンドデバイス(株)
アロカテクニカルサービス(株)
ミツミ電機(株)
(株)富士通ビー・エス・シー
(株)ユピテル鹿児島
(株)INAX
(株)日立メディコ
鹿児島大学大学院理工学研究科（9名）

生 体 工 学 專 攻

(株)鹿児島銀行
(株)新日本科学
(株)ハイテック
(株)インフォテクノ朝日
(株)日立メディコ
キリンファーマ(株)
ヤマハ鹿児島セミコンダクタ(株)
WDB エウレカ(株)
京セラ(株)
日産化学工業(株)
久光製薬(株)
日立電子サービス(株)
NEC マイクロシステム(株)（2名）
三菱電機(株)
富士電機(株)
アロカ(株)
ファミリ(株)
ホンダ技研(株)
(財)化学及血清療法研究所

ナ ノ 先 端 材 料 工 学 専 攻

アロン化成(株)
旭化成クラレメディカル(株)
(株)INAX
イビデン(株)
岩谷ガス(株)
川澄化学工業(株)
キャノン(株)
京セラ(株)
沢井製薬(株)
東海旅客鉄道(株)(JR 東海)
住友ベークライト(株)
ソニーセミコンダクタ九州(株)（2名）
大日本印刷(株)（2名）
THK (株)
トヨタ自動車九州(株)
東海ゴム工業(株)
日油(株)
日本ストライカー(株)
パナソニック環境エンジニアリング(株)
富士フィルム(株)
三井金属鉱業(株)
(株)村田製作所
(株)悠香
鹿児島大学大学院・博士後期課程

平成20年10月現在

工学部同窓会役員

(平成18年4月～平成21年3月)

顧問	福井泰好	(工学部長)
会長	岸園司	(機械30) (平成18年4月～平成20年8月)
会長代行	高崎征忠	(機械39) (平成20年10月～平成21年3月)
副会長	6部会会長	(次頁)
庶務幹事	伊地知和也	(化工44)
会計幹事	塙屋晋一	(建築57)
編集幹事	武若耕司	(海土52)
監事	有富正男	(機械47)
	白石巖	(電気51)

【評議員】

◆ 機友会(機械工学科・機械工学第二学科)

五田 敬介(28)	田中秀穂(31)
浜崎 和則(39)	米倉真一(40)
皮籠石 紀雄(45)	井手英夫(48)
福原 稔(56)	大重俊則(60)
江口之浩(H1)	染川和弘(H5)

◆ 南窓舎密会(応用化学科・化学工学科)

鎌田薩男(34)	染川賢一(39)
下茂徹朗(46)	松山広澄(49)
平田好洋(51)	大竹孝明(52)
吉留俊史(60)	神野好孝(H10)
満塙勝(H12)	小幡透(H12)

◆ 錦水会(電気工学科・電子工学科) 電気電子工学科・情報工学科

有馬純治(41)	池田浩二(51)
阿南文政(48)	平川眞(42)
石川均(42)	渕田孝康(63)
白石巖(51)	山本吉朗(62)
葉山勝年(41)	重井徳貴(H4)

◆ しらなみ会(海洋土木開発工学科) 海洋土木工学科

武若耕司(52)	萩亮(52)
有村実弘(53)	北崎義隆(53)
中野克彦(56)	高畦博(55)
三隅浩二(57)	山城徹(55)
西隆一郎(59)	宮園秀二(63)

◆ A O I 会(建築学科)

興梠典郎(47)	揚村 固(48)
梅野一郎(50)	池畠成男(53)
小島孝志(57)	宮城泰児(58)
肥後潮一浪(H4)	池田九生(H5)
日野真琴(H7)	松山星一(H11)

◆ 南翔会(生体工学科)

西薗智春(H13)	吉永圭介(H13)
星野太作(H14)	道岡洋子(H14)
竹中雅俊(H15)	小城裕史(H15)

工学部同窓会事務局

田中 博 TEL/FAX 099-285-3494

学内 TEL/FAX 8317

部会各支部役員名簿

機友

長事事事事事事長長長長
幹幹幹幹幹幹幹幹
務計副集副集副集副集
支支支支支支支支
東京西岡
監關中關福

会

忠雄(45)
穗(56)
稔洋(48)
夫士二(44)
美人央(30)
忍文(34)
大吉中(34)
米下佐(43)

◆ 錦水會

長長長事事員員事事事長長長長長長
幹幹幹務計集庶會編支支支支支支島
會副庶會編監監學學東閔東福熊宮鹿

(会長、副会長はH21年4月より)
泰純 勝浩 浩孝吉徳 泰文博 純治
三治 博巖 年二眞行 康朗 貴健 三博政司 均治
尾馬 野石 山田 原田 本井 原尾 野南 谷川 馬蓮
有永 白葉 池平 桑渕 山重 萩蓮 永阿波石 有

◆ A O I 会

長長長問事事事事長長長長
幹幹幹部部部部部部部
幹幹幹部部部部部部部
支支支支支支支支
東西九分崎
閩閩北大宮

武四寺前川塙曾	武友塘米四和山	元田下	郎男雄造夫一弘	朗和樹弘男遠昇
田元師田上屋我同田清			俊俊喜隆道晋和上敏貴直正俊正	(H6)
			三	

南窓舍密会

男澄男孝一朗洋毅重明史透師勝美夫郎美也(41)
薩広成好賢徹好浩武孝俊高敬征実昌真
田山高野川茂田藤橋竹留幡本塙斐宅田永田
鎌松日神染下平安高大吉小山満甲三種徳黒
長長査查事事事事事事員長長長長
幹幹幹幹幹幹幹幹議部部部部支支支支
表務務務計計計集集官東海西九州
会副監監代庶庶庶会会会会編編教関東関北部

◆ しらなみ会

会	長	野隅城村木田木	亮(52)
会	長	萩中三山木黒石梁	彦(56)
務	事	幹中幹幹幹部部	二(57)
計	事	支中支支支部部	徹(55)
集	長	幹中幹幹幹部部	仲(H10)
東	長	支中支支支部部	司(56)
西	事	幹中幹幹幹部部	覺(52)
固	長	支中支支支部部	寿(54)
福	事	幹中幹幹幹部部	

◆ 南 翔 会

光次郎(H13)
純一(H13)
周平(H6)
万友(48)
當靈(H6)

◆ 工学部同窓会大分支部

支	支	支	事	長	長	長	長	大	福	清	渡	石	田	田	辺	公	善	高	喬	(応化37)
支	支	支	事	長	長	長	長	福	清	渡	石	田	田	辺	則	(電気38)				
支	副	副	幹	部	部	部	部	大	福	清	渡	石	田	田	辺	之	(建築46)			

本 部 だ よ り

庶務幹事 伊地知 和也

工学部同窓会より訃報をお伝えいたします。平成20年春頃までお元気だった岸園司会長は8月28日ご病気により急逝されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

故岸園会長は工学部同窓会の発展はもとより、鹿児島大学をもっと有名校にすべく精力的に活動されており、平成18年11月、東京で開催された「鹿児島大学産学官連携情報発信シンポジウム」ではパネリストとして参加され、平成19年10月には工学部の「関東合同同窓会」を開催されました。また鹿児島大学同窓会連合会の関東支部設立に向けても大変尽力され、平成20年9月の設立総会を目前に亡くなられました。

会長不在となりましたので副会長会議を急遽開催し、協議の結果、高崎征忠・機友会会長が平成21年3月まで会長代行を務められることになりました。

さて、平成20年5月に、5年ぶりに同窓会名簿第13号を発行することができました。会員の皆様および関係者の方々に厚く御礼申し上げます。また、本年度は会報9号を来年3月に発行いたします。

工学部同窓会総会は3年毎に行われ、平成21年3月14日(土)に開催を予定しております。以下に本年度の拡大幹事会の議事録を掲載いたします。

平成20年度鹿児島大学工学部同窓会拡大幹事会議事録

日 時：平成20年8月22日(金)、18:00～20:30

場 所：鹿児島大学工学部管理棟3F大会議室

出席者：伊地知 和也、武若 耕司、塩屋 晋一、有富 正男、皮籠石 紀雄、福原 稔、
井手 英夫、渕田 孝康、山本 吉朗、重井 徳貴、曾我 和弘、鎌田 薩男、
下茂 徹朗、吉留 俊史、満塙 勝、三隅 浩二、湯ノ口 万友、中島 常憲、
田中 博（計19名）

議題1 平成19年度同窓会運営報告

(1) 平成19年度行事および会議

伊地知庶務幹事より報告された。6月23日の大分県支部総会には、浜崎先生（機械・元教授）、しなみ会関東支部から黒木支部長と小野氏が出席。10月19日に工学部関東合同同窓会が開催され、本部役員、各部会長および教員など15名が出席された。その他の行事や会議は例年どおりであった。

(2) 平成19年度本部会計決算

塩屋会計幹事より各項目について説明され、一部修正の上承認された。

- ・平成19年度の名簿発行事業は本年度5月にずれ込んだので、20年度決算とする。
- ・「名簿データファイルは使われていないが」との質問に対し、名簿管理は本部ではできないので各部会でやって欲しい（本部編集幹事）、部会で名簿管理のためのアルバイト代などの要望があったときは、6部会が公平になるように支出する（本部会計幹事）。

(3) 平成19年度本部会計決算の監査

有富監事より、監査の結果、会計処理が適正に行われていることが報告された。

(4) 名簿13号発行の結果

武若編集幹事より、発行スケジュールや名簿発行費（8/20現在）について報告された。

- ・名簿13号は、申込数が前回より多く（会員413、部会63）、また広告を掲載したので、名簿12号の半分程度の経費で発行できた。

(5) 工学部関東合同同窓会

伊地知庶務幹事より報告された。

- ・平成19年10月19日、三州クラブ（品川）で開催され、137名が参集。鹿児島本部からは、本部役員（岸園会長、福井工学部長、伊地知庶務幹事）、および機友会から3名、錦水会から3名、AOI会から1名、南窓舎密会から3名、しらなみ会から2名が参加された。

議題2. 平成20年度同窓会運営計画

(1) 平成20年度行事・会議の計画

伊地知庶務幹事よりこれまでの経過と今後の計画について説明され、承認された。

- ・6月21日の大分県支部総会には鎌田先生（応化工・元教授）が出席された。
- ・大分支部から本部への要望で、「資金が不足してきているので、本部で援助できないか」との相談を鎌田先生が受けられた。

(2) 平成20年度本部会計予算案

塩屋会計幹事より資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

- ・名簿13号発行費は、発行や支払が平成20年度になったので本年度会計処理をする。
- ・岩崎基金は、昨年と同様に事業計画はない（岩崎基金は特別なときに使う）。
- ・平成20年度前期の各部会への割当金および返金について説明され、前期の振込額が提示された。

(3) 会報9号発行計画

武若編集幹事より説明があり、承認された。

- ・発行部数は13,000部で見積もり、今回は2年分となるので10頁程度の増頁を見込んで予算をたてた。
- ・その中で、会報を同窓会ホームページ（HP）上に掲載したことを紹介するとともに、一回で300万円近くかかる会報発行の経費節減のため、HP上での会報の閲覧を併用することで冊子の発行部数を減らすことなど、将来の会報の在り方についての検討の

必要性を示すことにした。また、工学部同窓会における「個人情報の取り扱い」を再度会報に載せて周知する。

・会報における生存者叙歎の掲載については、以下のように対応することとした。

- ① 取り敢えず各部会で過去2年程度までの範囲で情報収集をお願いする。
- ② より古いものの情報が入った場合には、その掲載の可否については編集幹事会に一任させていただく。
- ③ 物故者への対応、一般会員の叙歎掲載の可否など、叙歎情報を会報へ掲載するための申し合わせについて、今後編集幹事会で審議する。
- ④ 広く情報を得るため、会報の中に情報提供依頼文を載せることにする。

(4) 工学部同窓会学生諸活動助成事業

過去の実績について伊地知庶務幹事より報告され、承認された。

・年々、学生諸活動の数が増えてきている。助成金の金額については要望がなかったので、従来どおり1件（または1学科）あたり3万円とする。

(5) 工学部同窓会総会および講演会

これから検討していく（伊地知庶務幹事）。

(6) 役員改選

伊地知庶務幹事より、次期庶務幹事は渕田先生（錦水会）、会計および編集幹事は小山先生（機友会）と塙屋先生（AOI会）にお願いし、担当を決めてもらう。学内監事は吉留先生（応化工）、学外監事は有村氏（しらなみ会・海士53）にお願いしている。

議題3. 各部会の行事報告と計画

今回は各部会の庶務幹事の先生に前年度報告と本年度計画を提出して頂き、各部会の活動を紹介していただきました。（機友会・皮籠石庶務幹事、錦水会・渕田庶務幹事、AOI会・塙屋庶務幹事、南窓舎密会・下茂庶務幹事、しらなみ会・三隅庶務幹事、南翔会・湯ノ口会計幹事）………本誌「部会だより」をご覧下さい。

議題4. 鹿児島大学同窓会連合会

同窓会連合会について、伊地知庶務幹事より紹介された。

- (1) 平成20年4月7日に同窓会連合会総会が開催され、福井工学部長、岸園会長、伊地知庶務幹事、高崎機友会会长、有馬錦水会会长、武田AOI会会长、鎌田南窓舎密会会长が出席され、平成19年度事業報告、平成20年度事業計画が審議された。
- (2) 平成20年8月5日同窓会連合会役員会が開催され以下が審議された。
 - ・七高同窓会の加入については、入会をお願いすることになった。
 - ・総会後の親睦会については参加者を増やす方向で開催日や会費などを検討していく。
- (3) 平成20年9月に開催される鹿児島大学同窓会連合会関東支部総会については、各学部同窓会までは案内状が来ていないとのことで、今後、参加の要請があれば検討する。

以上

会計報告

会計幹事 塩屋 晋一（建築昭和57年卒）

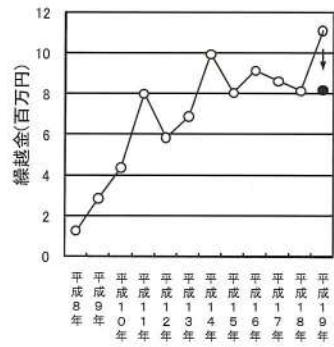
平成9年度の学部入学生より入学時に同窓会終身会費2万円を納入してもらうことになります。この会費は本部と各部会に半々で分けられます。本部、部会の活動は主にこの会費により運営されております。この納入制度になってからの本部の年度末の繰越金の推移を別図1に示します。この繰越金はおおざっぱに考えますと、本部が有している資金と言えます。平成19年度の○の繰越金は平成19年度名簿発行費用が差し引かれていないため増加しておりますが、それを差し引くと●の金額になります。本部の大きな事業としては3年間で2回の会報発行、1回の名簿発行があり、年により歳出が異なるため、各年の繰越金を細かく見ても意味がありませんが、制度が導入された平成9年度から繰越金は増加しておりますが、しかし、平成15年からはほぼ頭打ちになってきております。この原因は現在の入学生的会費で、平成8年度以前の入学の全卒業生の分も含めて会報発行（最高の年で320万円）、名簿発行（約250万円）の費用を負担していることにあります。前号でも報告しましたが、これらの費用の無駄を減らす努力は本部では行われてきておりますがもうそろそろ限界になっていることも、原因としてあげられます。平成9年度以降の学部入学生は終身会費として納入してもらっております。このことをできるだけ保証する策を今後、講じてゆく必要があると考えられます。

さて、本号では平成18年度と19年度の同窓会本部の一般会計収支決算報告ならびに岩崎基金収支決算を別表で報告します。一般会計収支については、歳入は当該年度の入学者納入金で、その他は前年度の繰越金です。一方、歳出は、各部会への割当金、本部運営費、会報発行経費です。岩崎基金については、これを用いた事業を行っていないため、歳入の利息だけです。

別表一 平成18年度一般会計収支決算報告書

（歳入）

項目	予算額	決算額	比較	備考
前年度繰越金	8,620,279	8,620,279	0	
本年度入学者納付金	9,900,000	8,180,000	-1,720,000	408+1/495名×2万円(二重振込1名)
本年度編入学者納付金	280,000	280,000	0	14名×2万円
本年度博士課程入学者納付金	20,000	20,000	0	1名×2万円
以前の入学者納付金	0	920,000	920,000	46名×2万円
以前の編入・博士課程納付金	0	120,000	120,000	6名×2万円
小計	18,820,279	18,140,279	-680,000	
名簿12号	0	7,360	-7,360	2冊
預貯金利子	0	5	-5	
合計	18,820,279	18,147,644	672,635	



別図1 本部の年度末繰越金

(歳出)

項目	予算額	決算額	比較	備考
各部会割当金				
機友会	1,000,000	1,380,000	380,000	91/98名、編2、前26
錦水会	1,560,000	1,330,000	-230,000	119/146名、編9、博前1、前13、前編5
AOI会	610,000	310,000	-300,000	45/60名、編1
南窓舎密会	710,000	470,000	-240,000	59/71名
しらなみ会	530,000	330,000	-200,000	37/53名、前6
南翔会	690,000	510,000	-180,000	57/67名、編2、前1
未納学生の退学・除籍返金	160,000	160,000	0	16名×1万円
外国人未納者の部会返金	520,000	520,000	0	52名×1万円(H9～H17分)
会費未計上分の部会への返金	0	40,000	40,000	H16年度：海土1名、生体1名
会費二重振込の返金	0	20,000	20,000	1名分
小計	5,780,000	5,070,000	-710,000	
本部運営関連				
会長経費	40,000	40,000	0	
庶務経費	40,000	40,000	0	
会計経費	40,000	40,000	0	
編集経費	60,000	60,000	0	2万円減額
名簿データファイル管理経費	100,000	0	-100,000	
事務員給与	811,200	948,500	137,300	
事務費	150,000	168,957	18,957	
小計	1,241,200	1,297,457	56,257	
会報8号発行費	2,550,000	2,816,624	266,624	増頁分と個人情報調査費約16万円
役員会・評議会等運営費	100,000	67,275	-32,725	連合会懇親会費含む
鹿児島大学同窓会連合会分担金	100,000	100,000	0	
支部出席等助成費	100,000	221,680	121,680	
工学部事務助成費	200,000	200,000	0	5万円減額
学生諸活動助成費	225,000	215,000	-10,000	OBゴルフ大会通信費2万円を含む
小計	3,275,000	3,620,579	345,579	
慶弔費	100,000	0	-100,000	
予備費	8,404,079	0	-8,404,079	
小計	8,504,079	0	-8,504,079	
合計	18,800,279	9,988,036	-8,812,243	

(注) 比較=決算額-予算額

繰越金：18,147,644円(歳入の決算額)-9,988,036円(歳出の決算額)=8,159,608円を平成19年度に繰越す。

別表-2 平成18年度岩崎基金収支決算報告書

(歳入)

項目	予算額	決算額
前年度繰越金	15,520,928	15,520,928
UFJ定期預金利息	0	5,600
UFJ普通預金利息	0	5
合計	15,520,928	15,526,533

(歳出)

項目	H18予算額	決算額
合計	0	0

別表一 3 平成19年度一般会計収支決算報告書

(歳入)

項目	予算額(注1)	決算額	比較(注2)	備考
前年度繰越金	8,159,608	8,159,608	0	
本年度入学者納付金	9,580,000	8,300,000	-1,280,000	415/479名×2万円
本年度外国人入学者納付金	20,000	20,000	0	1名×2万円
本年度編入学者納付金	220,000	240,000	20,000	12名×2万円
本年度博士課程入学者納付金	120,000	240,000	120,000	12名×2万円(1名は本部預かり)
以前の入学者納付金	380,000	840,000	460,000	42名×2万円
以前の編入・博士課程納付金	0	20,000	20,000	1名×2万円
以前の外国人入学者納付金	0	20,000	20,000	1名(H17年度部会へ1万円返金済み)
小計	10,320,000	9,680,000	-640,000	
同窓会名簿13号売上	1,530,920	0	-1,530,920	予約：会員415、部会63、計478冊
同窓会名簿広告代	270,000	190,000	-80,000	
OB ゴルフ大会通信費返金	0	10,000	10,000	実行委員会の拠出に変更のため
預貯金利子	0	5,138	5,138	郵便普通(1,484円)、鹿銀普通(3,654円)
合計	20,280,528	18,044,746	-2,235,782	

(歳出)

項目	予算額	決算額	比較	備考
各部会割当金				
機友会	1,240,000	1,310,000	70,000	94/94名、編2、博3、前16
錦水会	1,590,000	1,570,000	-20,000	139/151名、編5、外2、博2、前10、前博1
AOI会	600,000	280,000	-320,000	42/58名、編2
南窓舎密会	630,000	510,000	-120,000	50/62名、博後5、前4
しらなみ会	590,000	380,000	-210,000	38/49名、編1、前5
南翔会	690,000	560,000	-130,000	52/65名、編2、博1、前7
未納学生の退学・除籍返金	200,000	200,000	0	未納者20名×1万円
小計	5,540,000	4,810,000	-730,000	
本部運営関連				
会長経費	40,000	40,000	0	
庶務経費	40,000	40,000	0	
会計経費	40,000	40,000	0	
編集経費	60,000	60,000	0	
名簿データファイル管理経費	100,000	0	-100,000	
事務員給与	950,000	942,500	-7,500	
事務費	170,000	129,240	-40,760	
小計	1,400,000	1,251,740	-148,260	
名簿13号発行費	2,150,000	0	-2,150,000	H20年度へ
役員会・評議会等運営費	100,000	70,237	-29,763	連合会懇親会費含む
鹿児島大学同窓会連合会分担金	100,000	100,000	0	
本部役員出張旅費	400,000	275,000	-125,000	
工学部事務助成費	200,000	200,000	0	
学生諸活動助成費	225,000	195,000	-30,000	
小計	3,175,000	840,237	-2,334,763	
慶弔費	100,000	41,500	-58,500	
予備費	10,065,528	0	-10,065,528	
小計	10,165,528	41,500	-10,124,028	
合計	20,280,528	6,943,477	-13,337,051	

(注1) 歳入予算額は7月20日付の納入額に基づいて記載した。

(注2) 比較=決算額-予算額

繰越金：18,044,746円(歳入の決算額) - 6,942,810円(歳出の決算額) = 11,101,269円を平成20年度に繰越す。

別表－4 平成19年度岩崎基金収支決算報告書

(歳入)

項目	予算額	決算額
前年度繰越金	15,526,533	15,526,533
UFJ 定期預金利息	0	5,600
UFJ 普通預金利息	0	26
合 計	15,526,533	15,532,159

(歳出)

項目	H19予算額	決算額
合 計	0	0

参加者募集 !!

初心者歓迎

第28回鹿児島大学 O.B.学部別対抗ゴルフ大会

開催日 平成21年4月12日 (日)

場 所 蒲生カントリークラブ

募 集 各学部 50人

(昨年参加者 250人/工学部 29人)

* 学部対抗成績は学部上位10人対象

募集締切 3月16日 (火)

お問い合わせ先

工学部実行委員 有馬 TEL 099-251-3053

または

工学部同窓会事務局 TEL 099-285-3494

工学部同窓会学生諸活動助成金の募集について

鹿児島大学工学部同窓会では、平成9年度入学生より入学時に同窓会への入会をお願いし、在学生も同窓会会員（以下学生会員と記す）となっています。

本同窓会では、同窓会活動の一環として、学生の諸活動を積極的に助成しています。平成21年度も下記の通り募集する予定です。

1. 実施目的：鹿児島大学工学部の学生会員の諸活動と幅広い交流の助成
2. 助成対象：平成21年4月～平成22年3月の期間で学生会員が企画し、多数参加する催し物で、次のようなものとする
 - 学生会員が交流する集会・レクレーション
 - 学生会員と本学教官又は既卒の先輩方が交流する集会・レクレーション
 - 学生会員が全国的に活躍する大会
 - その他、実施目的に添う催し物
3. 助成金：一学科あたり3万円まで
4. 応募方法：別紙応募申し込み用紙に必要事項を記入の上、工学部同窓会本部に申し込む
申込用紙は工学部同窓会本部事務局〔工学部管理棟2階中会議室隣り、開局日：月・水・金（10時～17時）、TEL/ファックス：285-3494（内線8317）〕にあります。
E-mail : dousoukai@eng.kagoshima-u.ac.jp

平成20年度実績

- | | | |
|-------------|---------|---------------------------|
| H 20年5月3日 | 電気電子工学科 | 山下・大畠研究室平成20年度OB・OG交流会 |
| H 20年6月7日 | 情報工学科 | INFO CUP 2008（フットサル大会） |
| H 20年6月18日 | 海洋土木工学科 | 新入生歓迎会 |
| H 20年10月15日 | 電気電子工学科 | 白楽研究室バレーボール大会 |
| H 20年10月18日 | 応用化学工学科 | 応化・ナノ・生体工春季ソフトボール大会 |
| H 20年11月4日 | 電気電子工学科 | バドミントン大会 |
| H 20年11月15日 | 機械工学科 | エコラン研究会、ロボット研究会による鹿大祭での展示 |
| H 20年11月22日 | 工学部全学科 | 工学部体育祭 |
| H 20年12月2日 | 建築学科 | 学生と学科職員及び大学院生との交流会 |

平成19年度実績

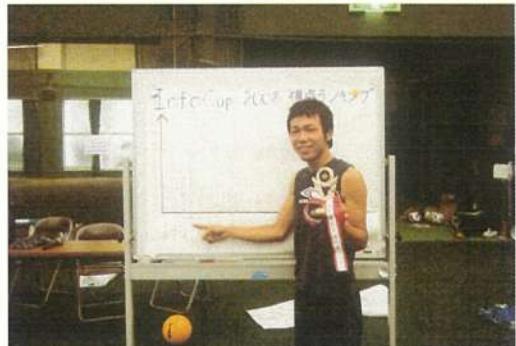
- | | | |
|------------|---------|---------------------|
| H 19年5月19日 | 応用化学工学科 | 応化・ナノ・生体工春季ソフトボール大会 |
|------------|---------|---------------------|

- H 19年 5月23日 海洋土木工学科 新入生歓迎会
- H 19年 6月23日 情報工学科 INFO CUP 2007 (フットサル大会)
- H 19年10月17日 電気電子工学科 白楽・土井研究室ソフトボール大会
- H 19年11月13日 建築学科 プロジェクト Aoi (OBによる講演会と交流会)
- H 19年11月17日 工学部全学科 工学部体育祭
- H 19年12月08日 電気電子工学科 第38回電気電子工学科バドミントン大会
- H 19年12月10日 機械工学科 エコラン研究会、ロボット研究会による展示

活動の風景 (H20年度実施順)



電気電子工学科 (バドミントン大会)



情報工学科 (フットサル大会)



海洋土木工学科 (新入生歓迎会)



応化工・ナノ・生体工学科(ソフトボール大会)



機械工学科 (エコラン研究会)



建築学科 (学生・院生・学科職員交流会)

編集後記

本部編集幹事・武若 耕司

ここに工学部同窓会会報「南桜風」第9号をお届けいたします。昨年度は、工学部同窓会名簿第13号を発行した関係で本会報の発行を休ませて頂きましたが、その間に、工学部では大学院を中心として改組が進められ、平成21年度からは新たな組織として生まれ変わることになりました。その大きな変更点の1つが、教員の所属が従来の「学部」から「大学院」に換わることです。大学の使命である教育・研究を通じての人材育成ならびに社会貢献をより幅広く行うためのシステムづくりの一環です。

金融危機を発端として生じた未曾有の不況の中、同窓生の皆様も何かと御苦労の多いこととお察し申し上げます。ただ、工学部の使命である“ものづくり”は、我が日本をこの危機から脱出させる大きな活力として重要な役割を果たすと確信しておりますので、皆様におかれましては、今後とも工学部ならびに大学院理工学研究科のさらなる躍進にご協力の程、お願い申し上げます。

なお、会報の内容は、前号より同窓会のホームページでもご覧いただけるようになりました。本号も初夏には掲載予定です。ホームページ自体も今後より充実させていく予定ですので、インターネットをお使いの折にお時間がございましたら、こちらへもアクセス頂き、内容等についてご意見を賜れば幸甚です。

機友会編集幹事・井手 英夫

未曾有の経済危機に直面し、学生にとりましても学費や生活費などの負担も重く、就職前線も益々、厳しさが増している昨今の状況です。嚴冬の時期を乗り越え、淘汰から來るべき春に備え、今学ぶこと、今できること、何が大切かなど考える機会かも知れません。

錦水会編集幹事・重井 徳貴

今回の部会だよりは、会員の皆様に錦水会を身近なものに感じていただきたく、全国7支部の近況や紹介をする紙面構成にさせていただきました。各支部ワイワイガヤガヤ楽しくやっておりますので、まだ参加したことがない方も、是非、気軽に最寄りの総会に参加していただけたら幸いです。総会の開催案内等の最新情報は、隨時、錦水会ホームページ <http://kinsuikai.mydns.jp> に掲載いたします。最後になりましたが、記事をご執筆いただきました皆様方に、お礼申し上げます。

AOI会編集幹事・曾我 和弘

AOI会の同窓会名簿を数えると、昭和23年から平成19年までの建築学科卒業生は約2,400名いらっしゃるのですが、AOI会が連絡先を把握しているのは、そのうちの60%強です。

できるだけ多くの皆様に建築学科や同窓会の活動状況をお知らせしたいと思いますので、ご転居などの際には、AOI会（<http://aoi.aae.kagoshima-u.ac.jp/>）までご一報くださいますようお願い申し上げます。最後になりましたが、原稿をご執筆いただいた皆様に感謝申し上げます。

南窓舎密会編集幹事・満塩 勝

2009年の工学部の改組により、応用化学工学科と生体工学科（生体機能材料）が再編成され、「化学生命工学科」および「環境化学プロセス工学科」となります。これに伴い、南窓舎密会の今後のありようについても議論が始まっています。どのような形になるかはわかりませんが、今の南窓舎密会がさらに発展するように力を尽くしたいと思います。

しらなみ会学内編集幹事・木村 至伸

かなり前の話ですが、久しぶりに会った同窓生から「同窓会の会報（8号）を見た！」とうれしい声を貰いましたが、その隣では「同窓会の会報？」という声も。アピール不足を感じましたが、この会報を通じて同窓会活動に参加・協力する同窓生（特に若手？）が増えればなあと願う次第です。最後に、ご執筆頂きました皆様方に感謝申し上げます。

南翔会編集幹事・中島 常憲

同窓会名簿第13号の編集作業につづき、会報編集をさせて頂きました。作業が後手にまわり事務局の田中様をはじめ多くの方にご迷惑をおかけしつつ、原稿を仕上げることができました。南翔会として大きな活動ができずに6年が経過しようとしておりますが、来年度は生体工学科改組に伴い、会の今後についても会員の皆様とともに検討しなければと思っております。最後に、ご多忙にもかかわらず原稿の執筆を引き受けて頂きました皆様に御礼申し上げます。

工学部同窓会報「南桜風」の同窓会ホームページへの掲載

工学部同窓会では、名簿を発行しない年度は工学部同窓会報「南桜風」を発行し、大学の近況や学科の様子、各部会の活動状況、新卒者の進路先などを紹介しております。工学部同窓会報「南桜風」は8号より工学部同窓会のホームページに掲載することになりました。下記のURLで、会報8号と同様のものが閲覧できますのでご利用ください。

<http://www.eng.kagoshima-u.ac.jp/~dousoukai/PDF/kaihou-8.pdf>

(または、鹿児島大学工学部を開き、「関連リンク」をクリックして同窓会ホームページにアクセスし、目次の「会報」をクリックしますと「会報8号」があります。)

会報は、会員の方で現住所が分かっている全ての皆様に無償で配布しています。しかし、会報発行には相当の経費がかかることから、工学部同窓会では、現在、会報発行の費用軽減を検討しているところです。将来的には、皆様の希望をとり、『会報の郵送を望まれる方には郵送しますが、同窓会ホームページによる閲覧で構わないとお申し出でいただいた方には郵送しない』といった方法なども検討しております。是非一度ホームページの方もご閲覧いただき、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸甚に存じます。

また、会報を送付しても事務局に返送されてくるものもかなりの量にのぼり、これも経費の無駄になります。つきましては、ご転勤などが生じた場合には異動届を必ずご提出ください。異動届は会報や名簿に添付されているハガキもしくは、工学部同窓会のホームページのなかの「同窓会名簿の訂正・追加」(<http://www.eng.kagoshima-u.ac.jp/~dousoukai/meibo.html>)でご連絡ください。

発行／鹿児島大学工学部同窓会

発行日：平成21年3月

〒890-0065

鹿児島市郡元一丁目21-40

TEL 099-285-3494 (内線8317)

FAX 099-285-3494 (内線8317)

E-mail:dousoukai@eng.kagoshima-u.ac.jp

同窓会ホームページ <http://www.eng.kagoshima-u.ac.jp/users/dousoukai/>

同窓会事務局開局日：月・水・金（10時～17時）

印刷・製本／斯文堂株式会社

本社 〒891-0122

鹿児島市南栄2-12-6

TEL 099-268-8211



FACULTY OF ENGINEERING,
KAGOSHIMA UNIV.

